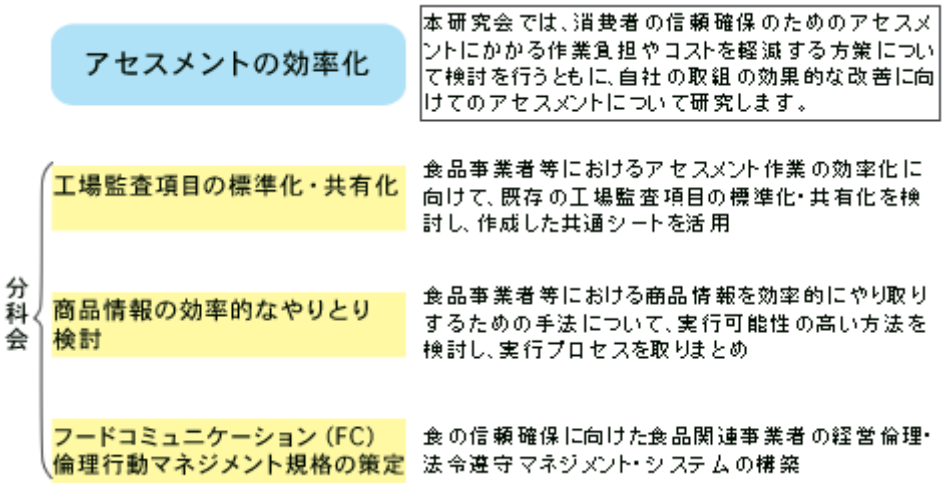
● 平成21年度 アセスメントの効率化研究会

「食の安全・信頼確保のための食品事業者の取組に関する情報」が関係者間で円滑にやり取りされ、共有されるよう、「協働の着眼点」活用方法の研究と、活用事例の収集を行います。これらの取組を通して、フードチェーン全体の透明性を高め、消費者の食に対する信頼向上に図ることを目指します。
また、より具体的なテーマに関して研究を行う分科会を立ち上げます。
今年度、アセスメントの効率化研究会内に設置する分科会は、平成 21 年 6 月現在以下の3つとなっております。

・工場監査項目の標準化・共有化分科会
・商品情報の効率的なやりとり検討分科会
・フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格の策定分科会
※「工場監査項目の標準化・共有化分科会」の募集は終了しました。

「商品情報の効率的なやりとり検討分科会」の募集は平成 21 年 8～9 月頃を想定しています。今後改めて募集のご案内をいたしますので、参加をご検討ください。



回	開催日	議事次第

第 3 回	平成 22 年 2 月 4 日 （木）	1.　分科会の進捗状況報告 （1）フードコミュニケーション(FC)倫理行動マネジメント基準策定分科会 （2）工場監査の標準化・共有化分科化会 （3）商品情報の効率的なやりとり分科会 2.　研究会活動に関する意見交換
第 2 回	平成 21 年 9 月 25 日 （金）	1.「協働の着眼点の活用」と研究会・実行可能性調査の関係について 2.分科会の進捗状況報告 3.地域活性化研究会の成果物報告 4.実行可能性調査の進捗状況報告
第 1 回	平成 21 年 5 月 27 日 （水）	1.「アセスメントの効率化研究会」概要説明 2.分科会の企画内容の説明 3.質疑応答・意見交換

平成21年度
FCP「アセスメントの効率化」研究会について

平成21年5月27日

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

2009年度「アセスメントの効率化研究会」の目的

● 2009年度は、フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下「FCP」とする）の基本的な考え方に基づき、3研究会に分かれて「協働の着眼点（第1版）」の活用方法の研究や活用事例の収集と普及を目的に情報の共有と意見交換を行います。

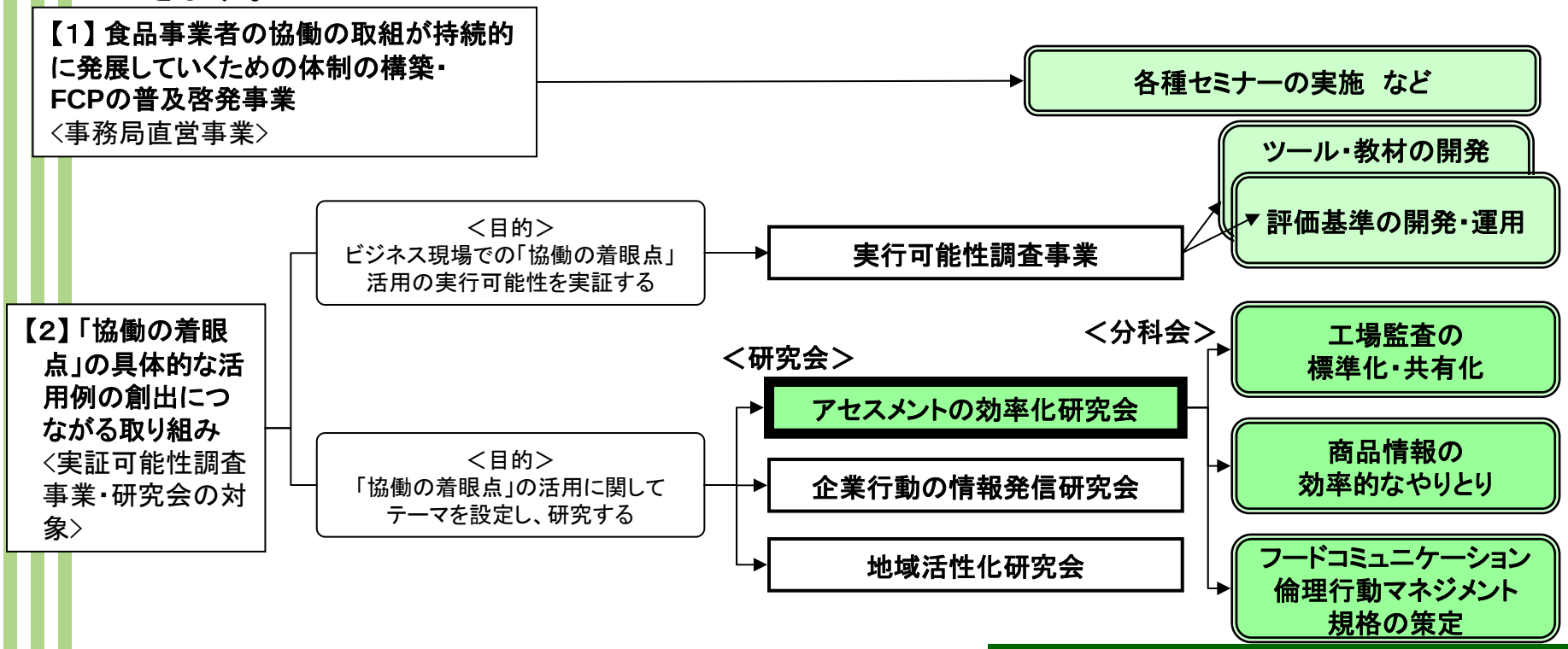
● アセスメントの効率化研究会では、特に「食の安全・信頼確保のための食品事業者の取組に関する情報」が関係者間で円滑にやり取りされ、共有されるよう、「協働の着眼点」活用方法の研究と、活用事例の収集を行います。これらの取組を通して、フードチェーン全体の透明性を高め、消費者の食に対する信頼向上に図ることを目指します。

● これらの目的のため、アセスメントの効率化に向けた課題を検討する分科会及び実行可能性調査で得られた成果等の情報を共有し、広く普及させるための意見交換を行います。

● 研究会での収集した情報、意見交換をもとに「協働の着眼点」に対する改善提案、今後の食品事業者としての取組、次年度の研究テーマについて提言を行います。

FCPの全体構成と「アセスメントの効率化研究会」

●平成21年度のFCPの全体構成は下図の通りです。
●アセスメントの効率化研究会では、「工場監査の標準化・共有化」「商品情報の効率的なやりとり」「フードコミュニケーション倫理行動規格の策定」の3つの分科会を立ち上げます。またアセスメントの効率化研究会は、実行可能性調査事業として予定されている「食品事業者業務評価基準の開発・運用」「協働の着眼点を活用した活動のためのツールや教材の開発・運用」などの活動や、事務局直営事業であるセミナー等と緊密に連携をはかっていきます。



研究会の進め方とスケジュール

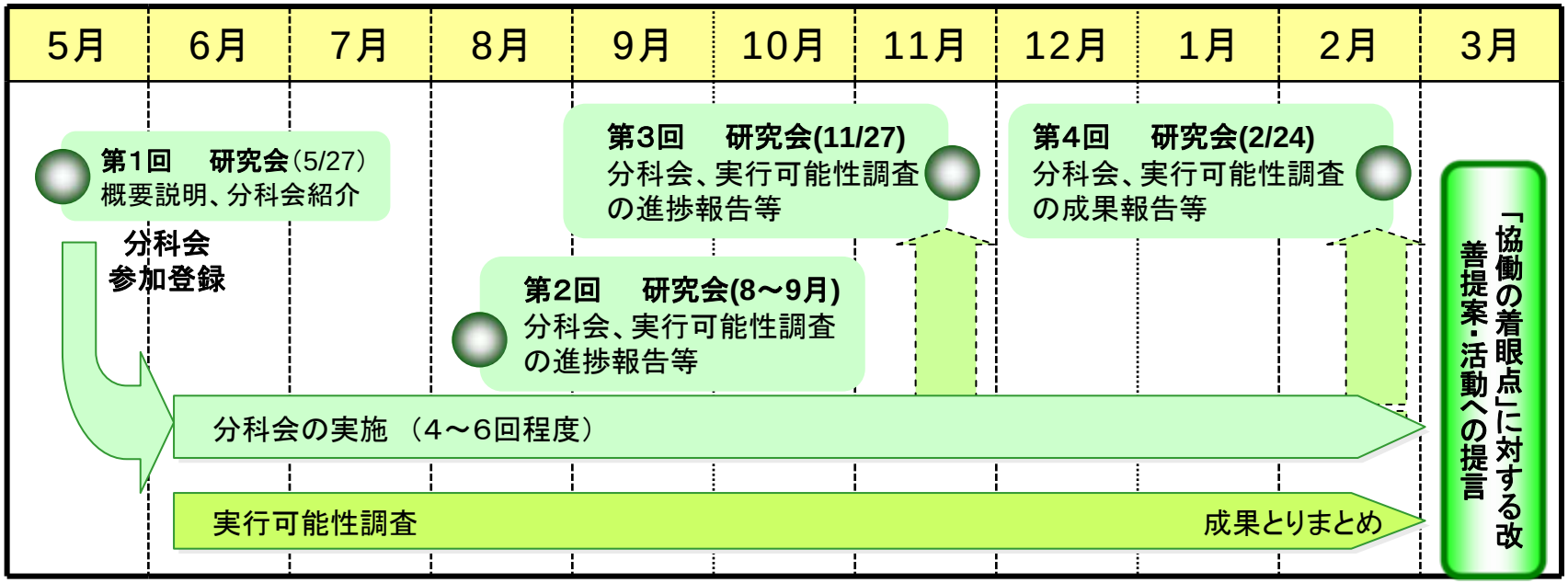
〇研究会：本日を含め、年間4回実施を予定しています。

・第1回（本日）：平成21年度FCPの進め方及び分科会・ブランチに関する情報共有

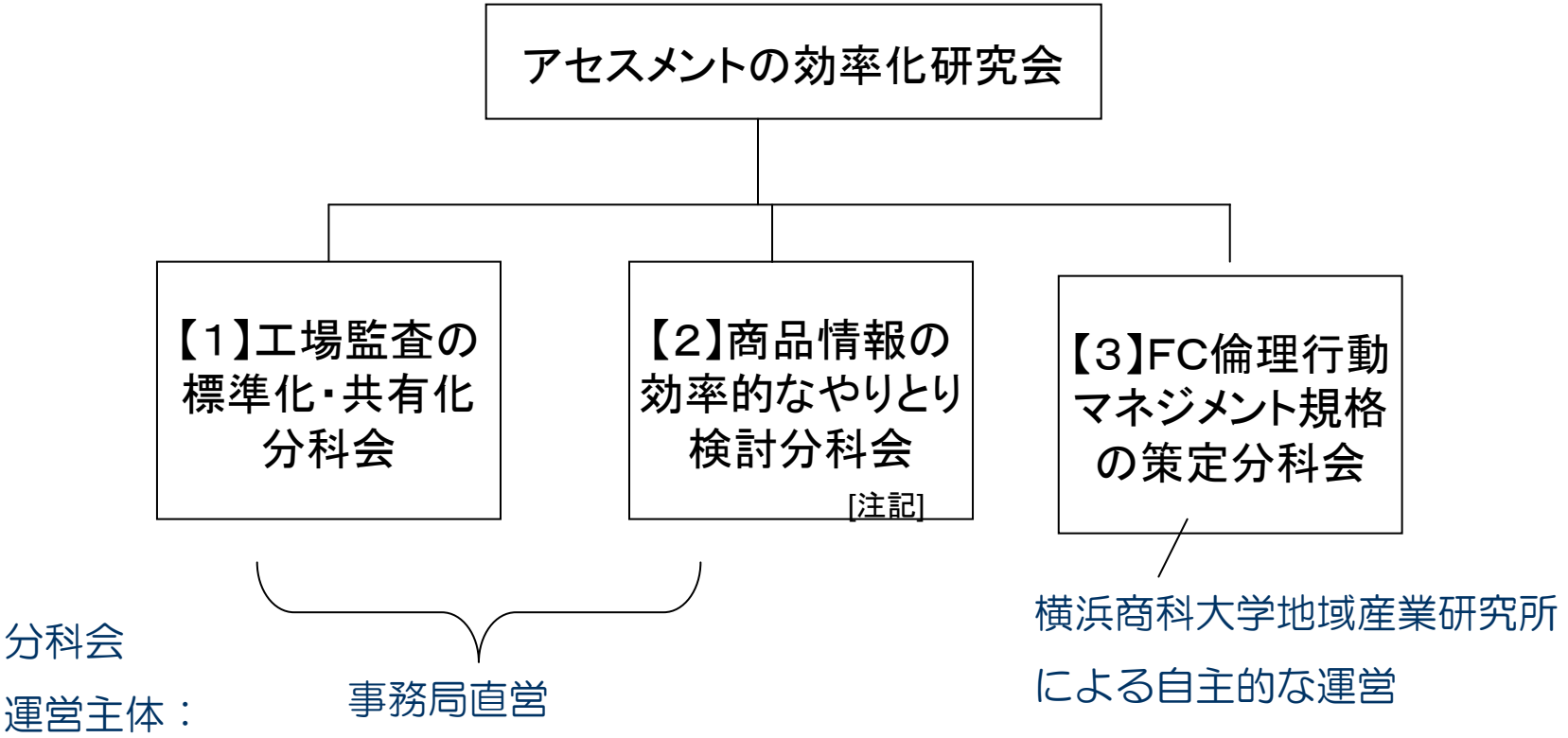
・第2回（8月から9月頃）：分科会、実行可能性調査の進捗報告及び意見交換

・第3回（’09年11月27日予定）：分科会、実行可能性調査の進捗報告及び意見交換

・第4回（’10年　2月24日予定）：分科会、実行可能性調査の成果報告及び意見交換



2009年度アセスメントの効率化研究会内設置分科会



[注記] 商品情報の効率的なやりとり検討分科会は、2009年度10月頃から開催予定です。

○アセスメントの効率化研究会の情報共有ネットワークの構築
　メーリングリストを作成し、「協働の着眼点（第1版）の活用事例等に関して、研究会に所属するメンバー間の情報共有を促進します。

分科会の運営について

（1） 事務局直営分科会への参加は、期間を定めて募集を行います。原則として途中からの参加はできません。

（2） 分科会の資料・議事概要については、ホームページ等で原則公表します。その際議事概要等は、発言者が特定できないようにしてから公表いたします。

　ただし分科会の議論内容が、企業秘密に触れたり、個人の権利・利益を害する恐れがあると判断した場合には、分科会資料等を非公表とします。

（3） 分科会のアウトプット等は、FCPの成果として公表することを原則とします。

第１回　アセスメントの効率化研究会の概要報告

・　日時　　平成 21 年 5 月 27 日（水）14：00～16：00
・　場所　　中央合同庁舎 4 号館　1219～1221 号室
・　出席者　35 事業者　40 名

＜議事次第＞

１．　「アセスメントの効率化研究会」概要説明
２．　分科会の企画内容説明
３．　質疑応答・意見交換

＜議事概要＞

はじめに、農林水産省フード･コミュニケーション･プロジェクト（FCP）の神井チームリーダーから、FCP の概要、今年度研究会の主旨についての説明がありました。次に、事務局から今年度の「アセスメントの効率化研究会」の進め方について説明いたしました。

□「アセスメントの効率化研究会」概要について

・「アセスメントの効率化研究会」に、以下 3 つの分科会を設置します。
「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格の策定分科会」
「工場監査項目の標準化・共有化分科会」
「商品情報の効率的なやりとり検討分科会」
本研究会は、これら分科会間の情報共有の場として、今年度４回の開催を予定しております。また、研究会参加メンバー間での情報共有としてメーリングリストなどの活用も予定しております。

※　横浜商科大学からお申し出がありました「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格の策定」については、
①FCP の理念に沿った活動であること
②大学の研究であり、成果の公開が約束されている活動であること
から、「アセスメントの効率化研究会」の活動の一環として位置付けることといたしました。

※　「商品情報の効率的なやりとり検討分科会」については、商品情報のやりとりの現状について情報収集し分析するための時間を確保する必要があるとの判断から、分科会開始時期を 21 年 10 月の予定で考えております。

続いて、各分科会の概要についての説明を行いました。

「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格の策定分科会」

・　分科会の発起人である「横浜商科大学地域産業研究所」小林二三夫教授から、分科会のメンバー構成、検討テーマ、および活動予定についてご説明いただきました。

次に、「工場監査項目の標準化・共有化」と「商品情報の効率的なやりとり検討」の２つの分科会のファシリテーターをご担当いただくことになっている「株式会社鶏卵肉情報センター」代表取締役社長 杉浦嘉彦様から、今年度分科会に対する想いをご披露いただいた後、事務局より両分科会の概要について説明を行いました。

「工場監査項目の標準化・共有化分科会」

・　工場監査項目の標準化・共有化については、今年度上半期に集中的に議論を行い、早期に具体的な成果を作り上げていきたいと考えています。
・　分科会での議論は、分科会参加者のご意見を伺いながらまとめていく予定であるものの、事務局の案として、①「協働の着眼点」を使った項目の抽出　→　②「抽出した項目の詳細議論」　という作業の流れを考えています。また、議論にあたって分科会参加各社から工場監査の現状に関する情報をご提供いただくことも想定しております。

「商品情報の効率的なやりとり検討分科会」

・　前述の通り、「商品情報の効率的なやりとり検討」分科会については、商品情報のやりとりの現状について情報収集する必要があることから、21 年度上半期に実施する予定のアンケートやヒアリングへのご協力を依頼いたしました。

□ 今後の予定などについて

・　アセスメントの効率化研究会の分科会構成や開催時期については、当日の参加者のご了解をいただきました。分科会の具体的な進め方については、今後実際に分科会にご参加いただいた皆様のご意見を伺いながら、詳細を決定していきます。
・　分科会の参加規約についても、配付資料で提示した案で確定させていただきました。各分科会参加者の募集は、メルマガにてご案内いたします。
・　第１回の「工場監査項目の標準化・共有化分科会」については、６月 18 日（木）午後の開催を予定しています。
・　横浜商科大学主体で開催される「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格の策定分科会」のオブザーブ参加については、別途事務局にお問い合わせ下さい。

＜配付資料＞

資料１　　参加者名簿

資料２　　参考資料：「平成２１年度ＦＣＰについて」

資料３－１　平成２１年度ＦＣＰ「アセスメントの効率化」研究会について

資料３－２　横浜商科大学「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格について」

資料３－３　平成２１年度ＦＣＰ「工場監査項目の標準化・共有化」分科会について

資料３－４　平成２１年度ＦＣＰ「商品情報の効率的なやりとり検討」分科会について

資料４－１　「アセスメントの効率化研究会、工場監査項目の標準化・共有化分科会」参加規約

資料４－２　「アセスメントの効率化研究会、商品情報の効率的なやりとり検討分科会」参加規約【案】

以上

「フード・コミュニケーション・プロジェクト」について

平成21年5月
農林水産省表示・規格課

1. FCPの概要

（1）フード・コミュニケーション・プロジェクト（FCP）は、農林水産省が、「食」に対する消費者の信頼向上のため、平成 20 年度から立ち上げた取組み（3ヵ年計画）

（2）消費者ニーズが多様化するなか、一律の規制ではなく、意欲的な食品事業者の取組みの活性化により、消費者の信頼向上を図ることを提案

（3）FCPでは、食品事業者の行動の「見える化」をテーマに取組みを推進

- あらゆる場面で、意欲的な食品事業者等の主体的な参画を働きかけ
- 食品事業者等が、着目すべき行動のポイントを取りまとめ（「協働の着眼点」）
- 食品事業者の行動について、「協働の着眼点」に則した情報の受発信を活性化
- 意欲的な行動が適正に評価される機会を増大、フードチェーン全体で透明性向上

2. 平成20年度の取組

（1）多様な関係者と農林水産省との間で「情報ネットワーク」を構築

- FCPの基本的な考え方に賛同する食品事業者等と情報を共有し、意見募集等を実施
- 昨年6月から募集を開始し、4月現在で、約230社／団体が参画

（2）作業グループによる「協働の着眼点（第1版）」を策定

- 製造、卸売、小売の業種別、観点別に9つの作業グループを編成。計70社が参画して、計42回会議を開催
- 「食に携わる関係者が、それぞれの立場で、また連携して消費者の信頼を高めていくために着目すべきポイント」を、現場の知恵を積み上げて作成

（3）「協働の着眼点」の活用方策を「研究会」で検討し、提言をとりまとめ

- 「企業行動の情報発信」「アセスメント」「地域活性化」の3テーマで、計88社／団体が参画して、計16回会議を開催
- 平成21年度以降、FCPが推進すべき（自らも参加を希望する）研究会や実行可能性調査（パイロット事業）について、農林水産省に提言

３．平成21年度の展開

平成21年度は、昨年度整えた仕組み「協働の着眼点」の活用事例を創っていくことが最大のテーマ。

さらに、食品事業者等の具体的な活動を消費者、食品事業者等に伝えていく動きも本格化。

（1）食品事業者等に対して「協働の着眼点」の活用を働きかけ

・パンフレット等の説明資料を開発し、あらゆる機会を捉えて、FCPの主旨や取組内容を分かりやすく情報発信
・「協働の着眼点」の活用事例を収集し、消費者、食品事業者等に対して発信、さらなる活用を促進
・地方公共団体等と連携した普及活動や情報共有NW参加者の協力を得た説明会を重点的に実施

（2）テーマ別の研究会やパイロット事業で具体的な活用例を創出

・情報共有NW参加者を対象に、「協働の着眼点」の具体的な活用に関するテーマ別研究会、パイロット事業（実行可能性調査）を実施
・【想定されるテーマ】
消費者との対話促進、マスメディアとの意見交換のあり方、FCPポータルサイト（仮称）の構築、アセスメントシート開発、業務評価基準の開発、商談会での活用促進、工場監査の基礎項目の標準化・共有化　　等

（3）食品事業者等の間の「協働」の取組を活性化

・テーマ別研究会やパイロット事業に参加する食品事業者等の間で情報共有、意見交換を活性化し、消費者の信頼向上のための調査・研究など、業種を越えた「協働」の取組が展開される機運を醸成
・FCPの活動を対外的に表明する自主賛同の仕組み（キャッチフレーズ等を含む）を検討し、食品事業者等の連携強化を促進

（4）「協働の着眼点」の持続的な改善

・食品事業者等と消費者、地方公共団体、農水省等が参加する「対話」の場を試行することなどにより、社会的要請を踏まえて「協働の着眼点」を持続的に改善する仕組みを検討
・情報共有NW参加者に参加を呼びかけ、「協働の着眼点（第２版）」の策定について検討する作業グループを開催

平成21年度
FCP「アセスメントの効率化」研究会について

平成21年5月27日

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

2009年度「アセスメントの効率化研究会」の目的

● 2009年度は、フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下「FCP」とする）の基本的な考え方に基づき、3研究会に分かれて「協働の着眼点（第1版）」の活用方法の研究や活用事例の収集と普及を目的に情報の共有と意見交換を行います。

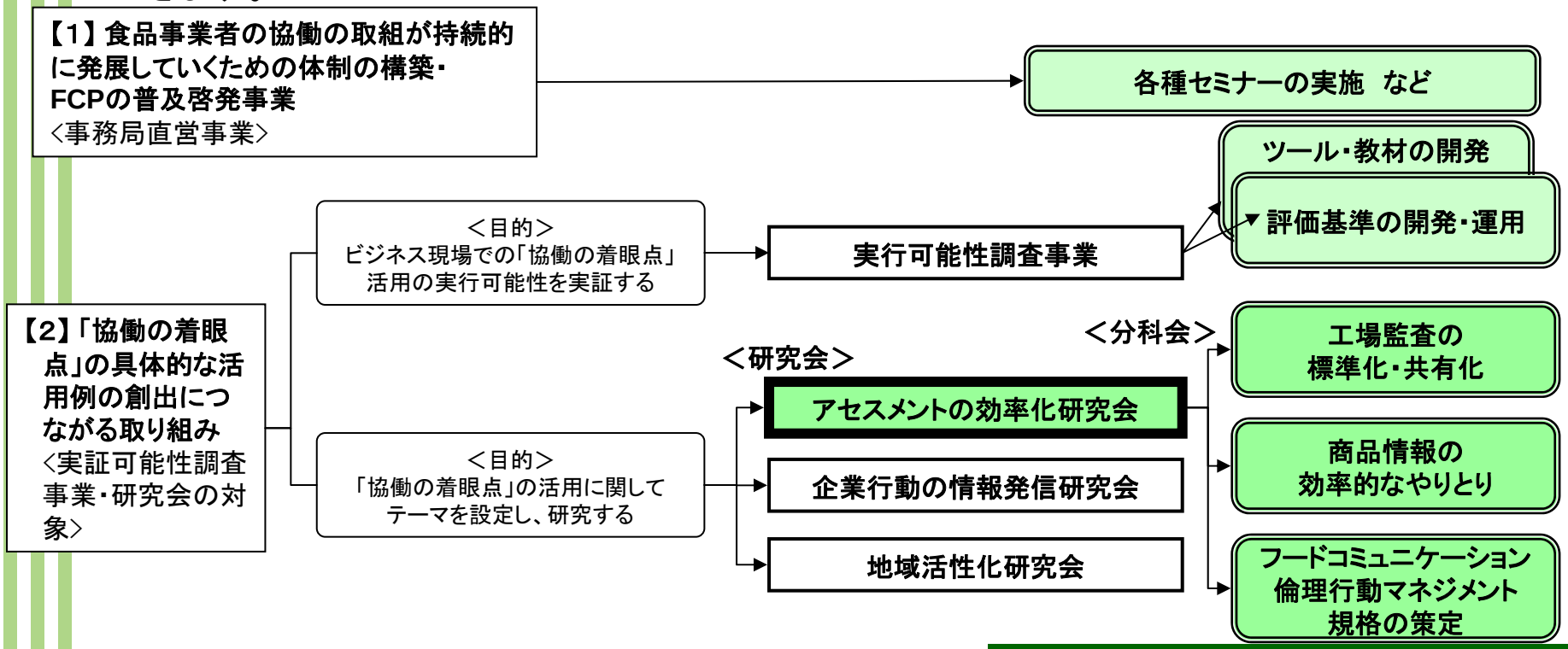
● アセスメントの効率化研究会では、特に「食の安全・信頼確保のための食品事業者の取組に関する情報」が関係者間で円滑にやり取りされ、共有されるよう、「協働の着眼点」活用方法の研究と、活用事例の収集を行います。これらの取組を通して、フードチェーン全体の透明性を高め、消費者の食に対する信頼向上に図ることを目指します。

● これらの目的のため、アセスメントの効率化に向けた課題を検討する分科会及び実行可能性調査で得られた成果等の情報を共有し、広く普及させるための意見交換を行います。

● 研究会での収集した情報、意見交換をもとに「協働の着眼点」に対する改善提案、今後の食品事業者としての取組、次年度の研究テーマについて提言を行います。

FCPの全体構成と「アセスメントの効率化研究会」

●平成21年度のFCPの全体構成は下図の通りです。
●アセスメントの効率化研究会では、「工場監査の標準化・共有化」「商品情報の効率的なやりとり」「フードコミュニケーション倫理行動規格の策定」の3つの分科会を立ち上げます。またアセスメントの効率化研究会は、実行可能性調査事業として予定されている「食品事業者業務評価基準の開発・運用」「協働の着眼点を活用した活動のためのツールや教材の開発・運用」などの活動や、事務局直営事業であるセミナー等と緊密に連携をはかっていきます。



研究会の進め方とスケジュール

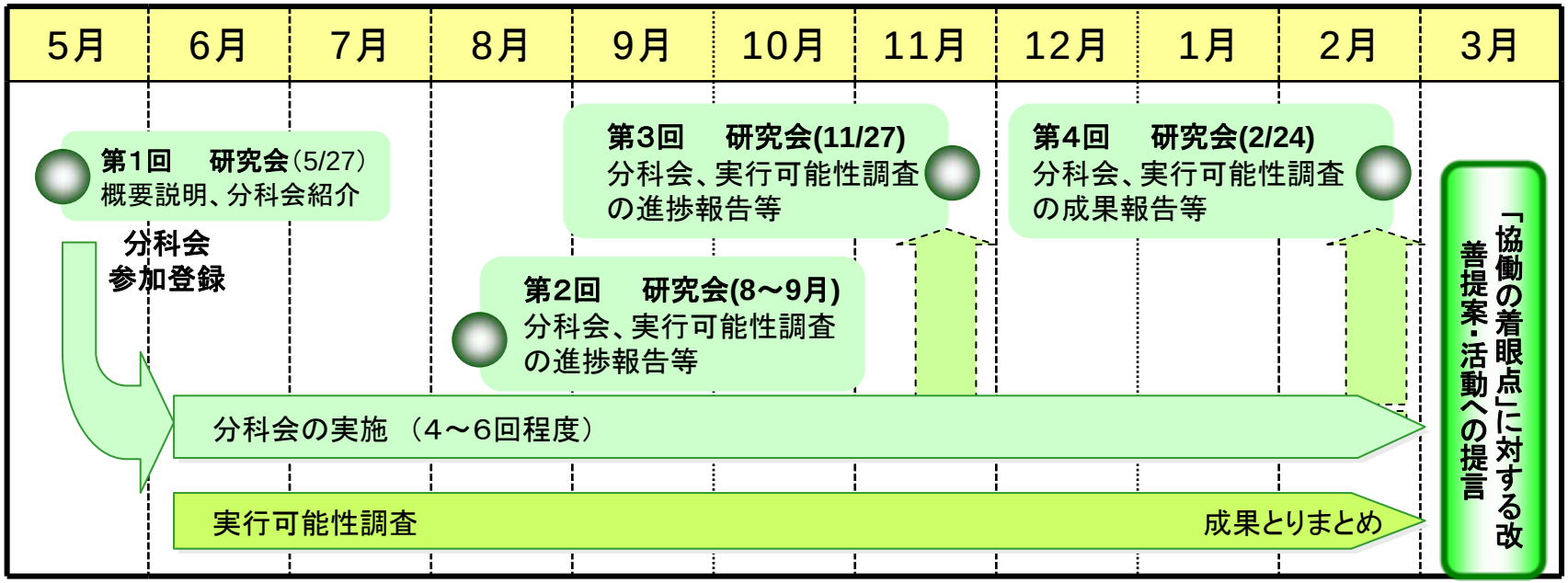
〇研究会：本日を含め、年間4回実施を予定しています。

・第1回（本日）：平成21年度FCPの進め方及び分科会・ブランチに関する情報共有

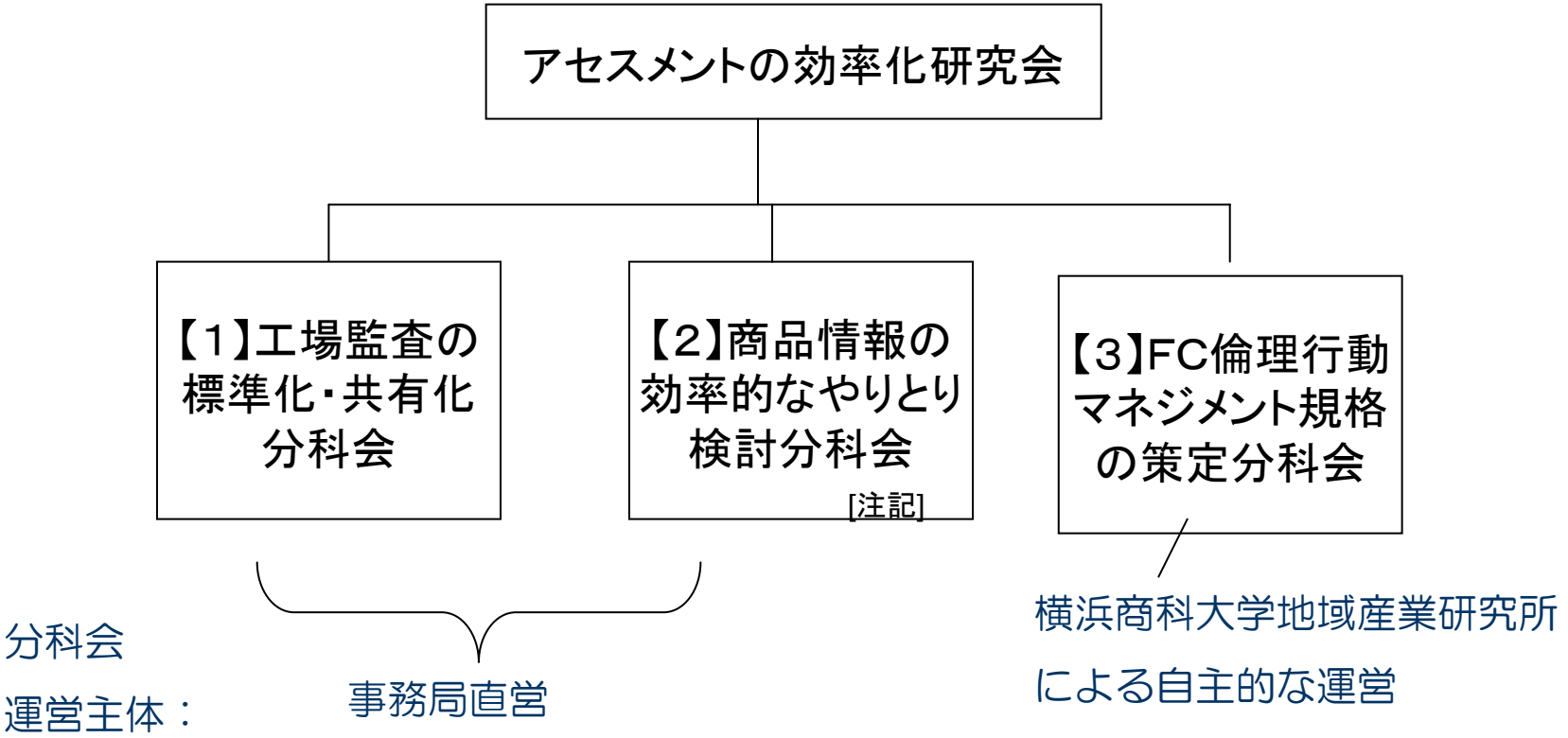
・第2回（8月から9月頃）：分科会、実行可能性調査の進捗報告及び意見交換

・第3回（’09年11月27日予定）：分科会、実行可能性調査の進捗報告及び意見交換

・第4回（’10年　2月24日予定）：分科会、実行可能性調査の成果報告及び意見交換



2009年度アセスメントの効率化研究会内設置分科会



[注記] 商品情報の効率的なやりとり検討分科会は、2009年度10月頃から開催予定です。

○アセスメントの効率化研究会の情報共有ネットワークの構築
　メーリングリストを作成し、「協働の着眼点（第1版）の活用事例等に関して、研究会に所属するメンバー間の情報共有を促進します。

分科会の運営について

（1） 事務局直営分科会への参加は、期間を定めて募集を行います。原則として途中からの参加はできません。

（2） 分科会の資料・議事概要については、ホームページ等で原則公表します。その際議事概要等は、発言者が特定できないようにしてから公表いたします。

　ただし分科会の議論内容が、企業秘密に触れたり、個人の権利・利益を害する恐れがあると判断した場合には、分科会資料等を非公表とします。

（3） 分科会のアウトプット等は、FCPの成果として公表することを原則とします。

2009 年 5 月 27 日

横浜商科大学地域産業研究所
商学部教授　小林二三夫

横浜商科大学「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」について

Ⅰ．横浜商科大学地域産業研究所について

横浜商科大学　：横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1、商学部の中に３学科を持つ単科大学
横浜商科大学地域産業研究所：地域の産業・社会に実践的な貢献をする調査研究を行う機関。
地域産業研究所の 2009 年度研究課題の１つに「食のサプライチェーンにおける食品関連事業者の経営倫理・法令遵守に関する研究」を挙げ、地元弁護士、弁理士、司法書士、食品・品質管理の専門家が研究員として就任。
以下は基本的な考え方。

Ⅱ．「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」（食品関連事業者の経営倫理・法令遵守マネジメント・システム）について

１．「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の導入

1)市場の評価と食品関連事業者の経営倫理・法令遵守の重要性

①　経営者の姿勢・経営組織　＋　②製品実現の基準　＋　③FCP協働の着眼点

組織行動は企業の大小に関わらず、誠実かつ透明性が求められる時代になった。企業は適正に管理運営され、フェアな行動をとり倫理・法令を遵守することが求められている。市場は結果責任のみならず、行動プロセスを評価する傾向が強まっている。経営者の姿勢・各組織が自ら設定する倫理規範を尊重し、関係法令を遵守する誠実さを担保する仕組み（内部管理体制）が求められる。

2)取引コストを減少させる経営倫理・法令遵守の体制

- 地域企業の活動範囲の拡大　　地域企業　→　広域企業　→　国際企業
- 企業取引の組織行動　　誠実、透明性が求められる
- 経営倫理の実践と確立、関連法令・条例・その他のルールなどの遵守の徹底
- 社会的説明責任、地域社会で働く人々がその組織に誇りをもてる場としての企業
- すでに導入済みの既存のマネジメント・システムがありマネジメントされていればそれ

を尊重する、不足部分を追加・補強する。

基本的には、問題が起きないような組織内の法令遵守体制が構築され、且つ機能させることが重視される。自浄メカニズム、主体的改善メカニズムが組織内に構築され、維持されることになる。

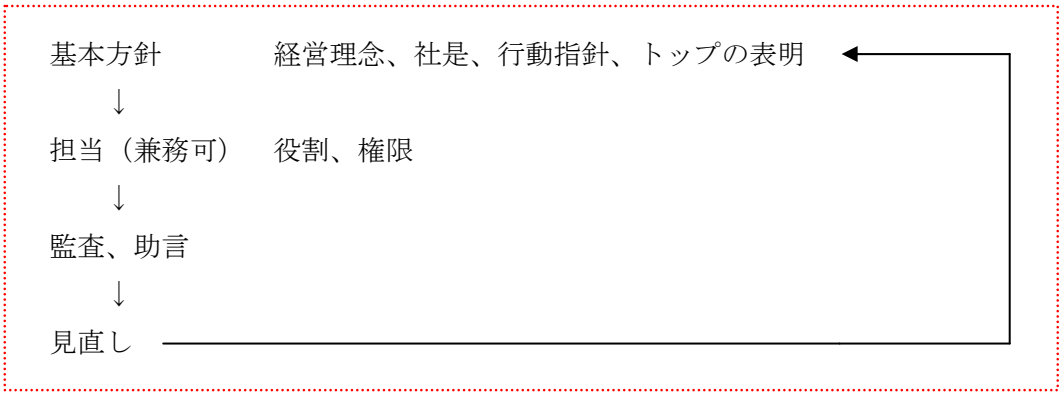
それらの行動を第三者が認証する仕組みにより市場の信頼、評価につながり取引コストが減少する。同時に新規取引として評価がしやすくなる。

3)枠組み

計画、実施と運用、監査、経営層による見直し。

２．　「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の概要
（食品関連事業者の経営倫理・法令遵守マネジメント・システム）

1)体制の構築　ＰＤＣＡ



2)業種ごとの製品実現の基準の導入と実施

基準はどのようなもの（HACCP,　AIB 食品安全システム、ISO9001,ISO22000 食品安全、GAP、各社のトレースシステムなど）でも良いがその実施状況の確認。

食品加工業者、工業、商業、農業などの製品実現の計画、顧客関連プロセス、設計・開発、購買、製造及びサービス提供、測定・分析。

3)トップのイニシアティブ

①自らガイドラインを出す　→　経営倫理・法令遵守の方針、実行計画、内部規定、その手順

②管理、維持、改善する組織、トップの関与とイニシアティブ

③規格（ガイド）の要求事項を満たし公表する

④透明性　社会的責任

法的ルール　―　社会的規範の尊重

外部要求　　－　組織的に自ら追及する

4) 「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の内容案

本システムは、FCP の「協働の着眼点」を重要事項として以下を追加する。

①経営倫理基準の策定（経営理念、社是、行動指針　など）
②経営倫理方針の公開と基準マニュアルの作成
③実施計画（教育トレーニング、相談担当など）
④事業として扱っているモノ、サービスに関する法令、ルールの全体的整理
　→遵守マニュアル
⑤内部規定の策定
⑥実施体制と運用
⑦教育と訓練
⑧コミュニケーション方法
⑨文書管理
⑩モニタリング
⑪是正と予防措置
⑫記録
⑬監査
⑭その他

３．　「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の利用可能性（食品関連事業者）

本規格は、大学という公器性に基づき公開し関係者に活用されることを目的とする。

1)格付け等の判断基準
2)金融機関が行う取引先紹介業務の企業判断資料
3)金融機関の融資判断資料
3)小売業者の取引先選定の基礎的判断資料
4)原材料等の企業間の取引における取引先選定の基礎的判断資料
5)消費者の企業判断材料
6)その他

４．　今後の研究予定

1)体制　横浜商科大学地域産業研究所　研究員
2)会議　横浜商科大学地域産業研究所　研究員および研究所が必要応じて招聘する専門家
3)第一次「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」完成予定（‘09 年 8 月中旬）
4)その後修正と追加　利用目的により項目の追加、環境変化により修正
5) 「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の利活用可能性および利活用における課題を整理
6)課題　①海外事業者、②判断基準の判定者、③その教育と資格認定、④企業の指導者

以上

平成21年度　FCP「工場監査項目の標準化・共有化」分科会について

平成21年5月28日

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

工場監査項目の標準化・共有化分科会の目的

〇フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下FCPとする）の基本的な考え方に基づき食品事業者等が参集し、既存の工場監査の項目のうち、安全・信頼確保のための取組に関するものについて、監査項目の標準化・共有化の検討を行う。「協働の着眼点」の項目の中から共有可能なものについて整理を始め、基礎的な項目に関する標準化・共有化の為のツールを作成し、活用の提案をとりまとめる。

☆本分科会においては、FCPに賛同する様々な業種・業態の事業者が取り組みやすい工場監査項目の標準化・共有化を行うことを目的とし、参加メンバーは検討の成果を自社で実際に活用することを前提として検討に参加する。ただし、現状使用している監査項目や、工場監査シートを新たに作りかえることを義務づけるものではない。（まとめの方向性は、参加者と議論しながら検討する）

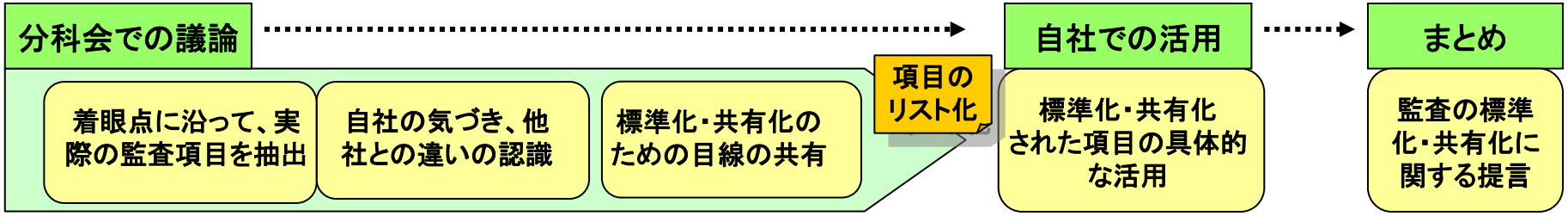
☆本分科会においては、早期の具体的活用を目指し、短期集中的な開催を予定している。よって分科会開催回数の変更や、分科会開催前のアンケートやヒアリングについて、参加者の意向を伺いながら進める。
なお、アンケートやヒアリングの内容については、企業・個人名が特定できない形式で、分科会の議論のみに使用する。

工場監査項目の標準化・共有化分科会の進め方

○手法1：目線あわせとして「協働の着眼点」を活用
「協働の着眼点」の項目を参考に各社で行われている監査項目について、目線あわせをしながら整理をする。アウトプットとしては、議論でまとめた（標準化・共有化された）基礎的な項目のリスト化、及びその活用方法についてとりまとめることとする。

○手法2：アウトプットを自社にて活用
標準化・共有化された項目について、実際に自社の工場監査時に活用をしてみる。（例えば自社の工場監査シートと標準化・共有化された項目を照合をして効率的な監査を実施（監査を受ける側が、標準化された監査項目について充分理解をし、自発的に改善をしていく姿勢も意識）。）

○手法3：まとめ
実際に活用した結果をもとに、課題点の改善等を行う。あわせて、監査の標準化・共有化に関する提言をまとめる。（例：FCP賛同の他社からの監査受入れ時に、標準化された項目について監査が行われていることを理由に、監査を効率化することなど）



工場監査項目の標準化・共有化分科会の議論の範囲

5.【製造における取組】
安全かつ適切であり、表示が適切で、また品質（※5）が維持された食品を販売するための、製造における取組を行っている

（1）【製造工程の管理】
- ①食品製造用の設備及び器具の食品接触面を清潔に保っている
- ②食品製造で使用する水は飲用適（※29）であり、安全な方法で処理及び維持管理している
- ③食品に応じた加熱、冷却、乾燥及び包装を適切な条件下で行えるよう管理している
- ④異物混入の防止、異物の検出及び異物の除去に取り組んでいる
- ⑤微生物及びアレルギー誘起物質（※30）の交差汚染（※31）を防ぐ対策をとっている
- ⑥製造工程中の食品の品質及び衛生検査を行っている

（2）【適切な表示の実施】
- ①適切に設定された、賞味期限または消費期限を食品に表示している
- ②原材料の情報及び製造した食品の情報のリンクを適切に行っている
- ③包装への印字を適切に行うよう、製造した食品及び印刷機の管理を行っている
- ④印字された表示が適切であることを確認している

（3）【食品の保管及び管理】
- ①食品に応じた条件下で保管及び管理している
- ②出荷前に食品の品質検査及び衛生検査を行っている
- ③ロット間の誤混入が起こらないよう食品を取り扱っている

（4）【工場での従業員の衛生（※19）管理】
- ①健康状態が適切でない従業員が、工場内に立ち入らない対策をとっている
- ②従業員の衛生状態が維持されるよう、工場での衛生管理を行っている
- ③工場での食品汚染を招きかねない行為を明確に禁止している
- ④工場への訪問者は、従業員と同等の個人衛生規定を守らなければ入場できないよう取り決めている

（5）【施設及び設備の設置】
- ①施設の立地（土壌、水質及び空気）が重大な汚染にさらされていないことを確認している
- ②施設の内部構造、及び窓やドア等の付属品を、耐久性に優れ、メンテナンスがしやすく、必要な場合には消毒可能なものにしている
- ③工場内に換気設備を設置している
- ④衛生的な作業に十分な照明設備を設置している
- ⑤食品製造に使用する設備は、衛生的な取り扱いに適したものを選定し、配置している
- ⑥施設、設備及び器具のメンテナンスのための用具を設置している

（6）【施設及び設備の管理】
- ①有害小動物（鼠及び昆虫等）の駆除及び侵入防止を行っている
- ②有害小動物の駆除及びクリーニング用等の薬剤について、適切な保管及び使用用途の管理を行っている
- ③食品の汚染が起こらないように排水及び廃棄物の処理を行っている
- ④施設及び設備の、メンテナンス及びサニテーション（※28）を行い、その効果の検証を行っている

○既存の各工場監査項目のコアとなる「協働の着眼点（第一版）～製造版」の【5. 製造における取組】の27小項目から議論を展開。
※上記以外の監査項目部分についても皆様のご意見を踏まえながら進める

工場監査項目の標準化・共有化分科会の進め方（議論の方法）

○例えば、「協働の着眼点（第一版）～製造」の５－(６)－①の監査項目例

①有害小動物（鼠及び昆虫等）の駆除及び侵入防止を行っている

事前ヒアリングの例

A社	B社	C社
自社での定期対策が実践されていればOK	自社での定期対策の実践 ＋ 実施記録の有無	自社での定期対策の実践 ＋ 実施記録の有無 ＋ 専門業者への委託

項目の標準化・共有化に向けての議論

- ①の判定を行うためにチェックする要素（対象の明示・実施頻度・記録保存など）について比較対照して検討
- 検討結果を踏まえて、標準化・共有化が有効な要素を洗い出し、整理
- 整理した要素を、可能な限り監査の判定の判断が一定となるような表現ぶりで、標準化・共有化の項目としてとりまとめ

○着眼点の27小項目に沿って、１項目ごとに各社の監査項目をアンケート等により、抽出。小項目ごとに個別の標準化のための議論を積み重ね、全体として標準化・共有化された項目をリスト化する。

年間スケジュール（案）

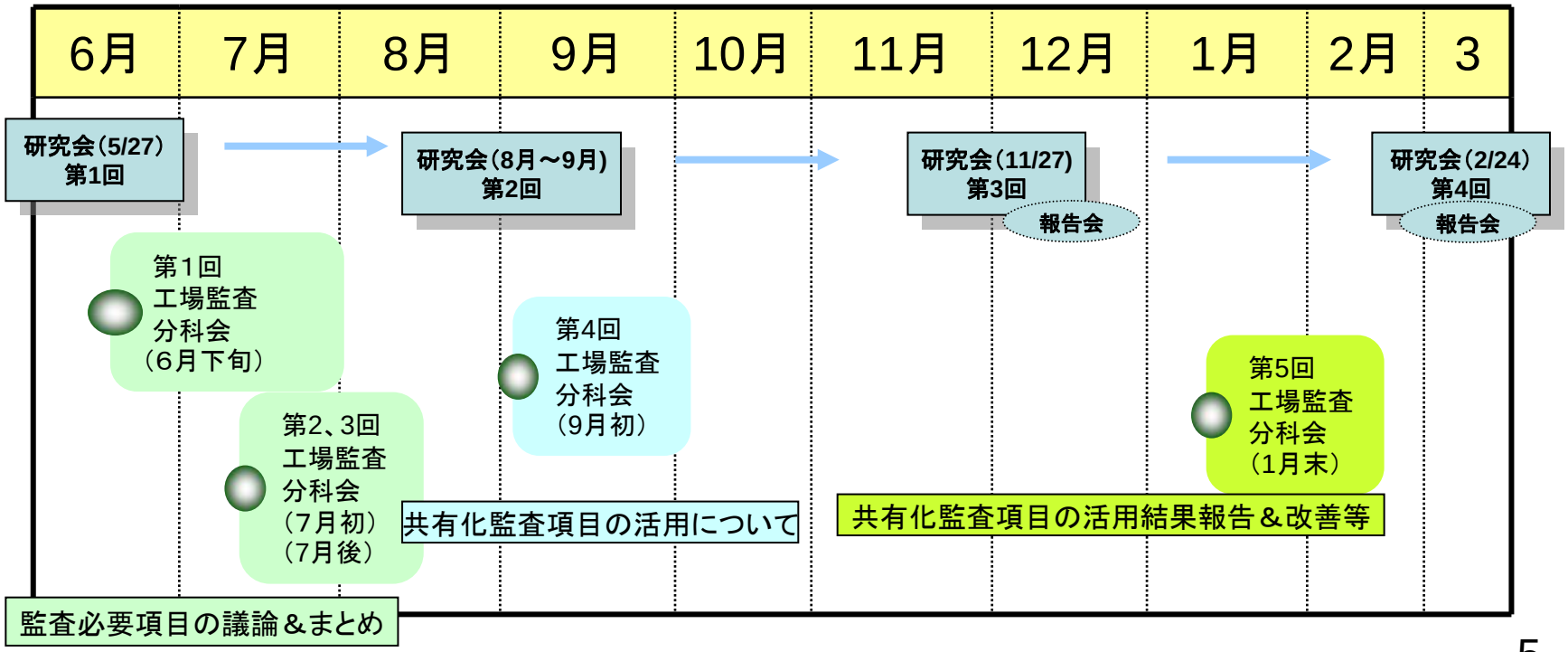
分科会の活動スケジュール

・活動予定　　全5回開催予定

・各回テーマ　　議論の進捗にあわせて都度ご案内致します（P4-5参照）

・備考　　研究会（全体会）にて、他分科会参加者と情報共有を致します

※スケジュールはすべて暫定です。皆様のご意見を伺った上で設定いたします。



平成２１年度　FCP「商品情報の効率的なやりとり検討」分科会について

平成２１年５月２７日

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

商品情報の効率的なやりとり分科会の目的

〇フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下FCPとする）の基本的な考え方に基づき食品事業者等が参集し、商品情報の効率的なやり取りをするための方策について検討を行う。

☆　まず本分科会立ち上げ前に、各所で取組んでいる様々な検討の現状について、アンケート・ヒアリング等により、把握分析する。（なお、情報収集のために実施するアンケートやヒアリングの内容については、企業・個人名が特定できない形式で実施し、分科会の議論のみに使用する。）

☆その上で分科会において、目的に応じた項目の分類（法令を遵守するための必須情報、付加価値情報等の分類）や、商品情報シートの標準化などの、情報のやりとりを効率化させうる手法について多様な選択肢を検討する。

☆さらに、これらの選択肢のうち、実現可能性の高いものを選び、効率化の成果を実践することのできる「話し合いの持ち方」「検討の行い方」を研究し、提言にまとめることとする。

☆本分科会においては、広く情報を収集し、効率化の現状を把握分析した上で分科会を開催することとするため、今年度のゴール等は第1回分科会の場で改めて議論する予定である。

年間スケジュール（案）

分科会の活動スケジュール

・活動予定　　全3回開催予定

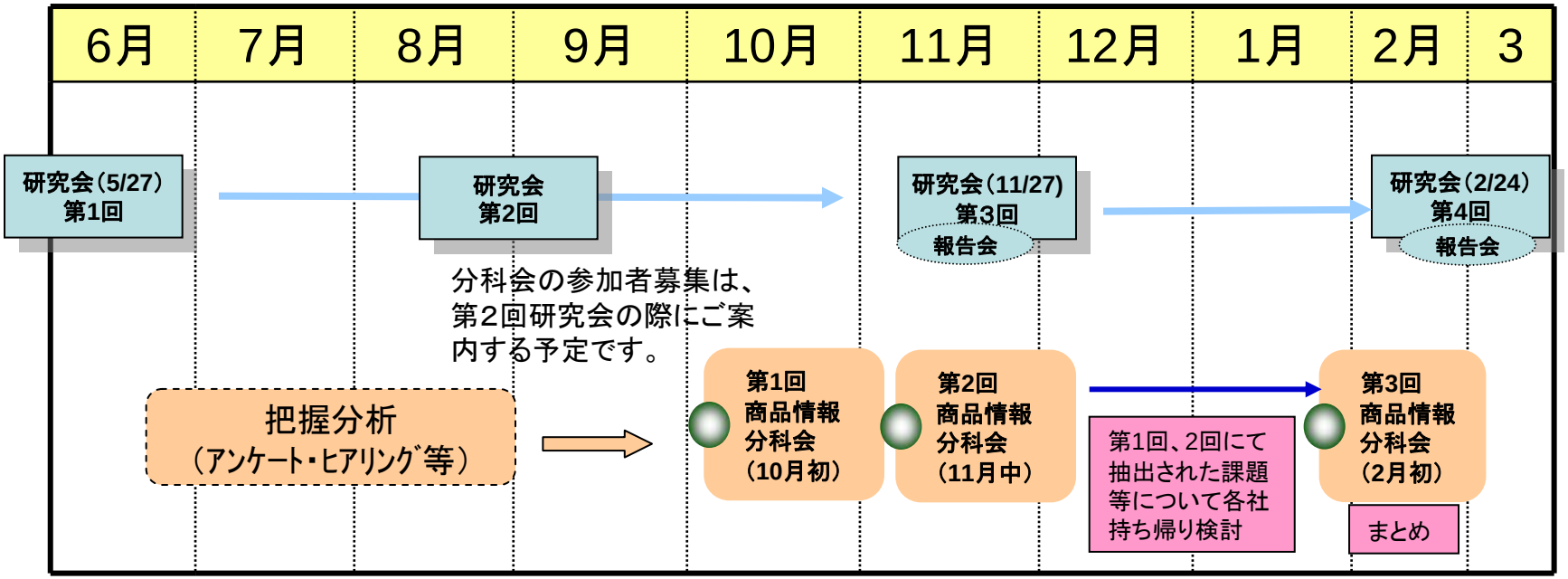
・各会テーマ　　第1回 「話し合いの進め方」

第2回 「効率化の手法について」

→各書式、各項目分類、必要情報（法令上の必須情報）、付加価値情報、等

第3回 「効率の手法を実践するプロセスについて」

・備考　　初回開催前に、アセスメントの効率化研究会ご参加の皆様にヒアリング・アンケート等をさせて頂く予定ですので、ご協力をお願いします。



※スケジュールはすべて暫定です。皆様のご意見を伺った上で設定いたします。

第１回 「アセスメントの効率化研究会」参加者名簿

平成21年5月27日

横浜商科大学　地域産業研究所
株式会社アイ・エス・レーティング
味の素株式会社
イオン株式会社
株式会社イトーヨーカ堂
花王株式会社
カゴメ株式会社
京セラミタジャパン株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社シジシージャパン
株式会社高島屋
株式会社竹中工務店
株式会社ちぼり
株式会社東急ストア
東京海上日動火災保険株式会社
東洋冷蔵株式会社
株式会社ニチレイフーズ
日清オイリオグループ株式会社
株式会社日本アクセス
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
財団法人日本食品分析センター
社団法人日本能率協会
株式会社阪急クオリティーサポート
株式会社ファイネット
株式会社ファミリーマート
株式会社ホンダトレーディング
みずほコーポレート銀行
ミツイワ株式会社
株式会社ミツカン
三菱化学メディエンス株式会社
三菱商事株式会社
株式会社山武
株式会社菱食
株式会社ローソン

（企業／団体名五十音順）

※個人情報保護の関係上、参加者の個人名は省略させていただきました。

第２回　アセスメントの効率化研究会の概要報告

・　日時　　平成２１年9月２５日（金）１７：００～１８：２５
・　場所　　ＴＫＰ東京駅ビジネスセンター１号館　ホール１５Ａ
・　出席者　　２８事業者・組織　３６名

＜議事次第＞

１．開会ご挨拶（農林水産省・神井調査官）
２．「協働の着眼点の活用」と研究会・実行可能性調査の関係について
　（ＦＣＰ事務局）
３．分科会の進捗状況報告（分科会幹事企業およびＦＣＰ事務局）
　・　フードコミュニケーション(FC)倫理行動マネジメント基準策定分科会
　・　工場監査の標準化／共有化分科化会
４．地域活性化研究会の成果物報告（分科会幹事企業）
　・　企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用促進分科会
５．実行可能性調査の進捗状況報告
　（ＦＣＰ運営事務局および実行可能性調査実施事業者）
６．事務局からのご連絡（ＦＣＰ事務局）
７．閉会ご挨拶（農林水産省・神井調査官）

＜議事概要＞

１．開会ご挨拶

はじめに、農林水産省フード･コミュニケーション･プロジェクト（FCP）の神井チームリーダーから、日頃のＦＣＰの取り組みへの参加のお礼を申し上げた後、今回の研究会開催の趣旨についてご説明いたしました。

今年度のＦＣＰは、昨年度の事業報告書に盛り込まれた提言にもとづき、協働の着眼点の活用方策を検討しており、研究会として活動しているものと、実行可能性調査として活動しているものがあります。本日は、アセスメント研究会の中の各分科会の活動と、各実行可能性調査の進捗状況についてご説明を行い、ＦＣＰにご参加いただいている皆様の情報共有を図ることで、それぞれの活動に相乗効果が生まれることを目的としています。また皆様に日頃ご協力いただいている活動が、どのようなアウトプットにつながるのかを把握いただき、それらのアウトプットを今後自社内でご活用いただきたいと考えている旨のご説明をいたしました。

２．「協働の着眼点の活用」と研究会･実行可能性調査の関係について

次にＦＣＰ事務局から、資料２・３を使い、今年度のＦＣＰの活動概要について

ご説明をいたしました。今年度は３研究会の下に７分科会と地域ブランチが設置され、また９つの実行可能性調査が活動中です。“イラストで見る「協働の着眼点」の活用（資料３－１）”では、協働の着眼点の活用想定シーンを図示しており、分科会や実行可能性調査が、それぞれどの活用シーンにマッピングされるか、ご説明いたしました。

３．分科会の進捗状況報告

引き続き、アセスメント研究会の各分科会の進捗状況について、分科会幹事から報告がありました。

（１）フードコミュニケーション倫理行動マネジメント規格策定分科会

分科会幹事の横浜商科大学小林教授から、資料４を使い、現時点までの分科会活動で策定された規格の案と、全体の作業進捗状況についてご説明いただきました。今後規格案の内容の精査を行なった上で、事例調査を実施していく予定である旨のご説明がありました。

（２）工場監査項目の標準化・共有化分科会

ＦＣＰ事務局から現在までの分科会での作業の流れと、アウトプットの活用イメージを、資料２（Ｐ．８～１４）を使ってご説明いたしました。

１０月下旬に工場監査項目シートの暫定版が完成し、そのシートを各社でお使いいただいた上でブラッシュアップを図る予定となっています。

４．地域活性化研究会の成果物報告

地域活性化研究会の中で「企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用促進分科会」の分科会幹事を務められている日本能率協会箱崎様から資料２（Ｐ．１５～１７）を使い、分科会の活動状況についてご報告をいただきました。

この分科会では、現在一般的に行われているマッチングフェア・商談会の課題と改善点を整理した上で、「商材情報シート」の作成を進めており、今後実際のマッチングフェアや商談会でそれらの活用・検証を行う予定としています。

５．実行可能性調査の進捗状況報告

引き続き、ＦＣＰ事務局から資料５を使い、現在の実行可能性調査の進捗状況と、各調査のアウトプットイメージ、今後の予定についてご説明を行いました。

ＦＣＰ事務局からの説明に続き、当日ご参加いただいていた実行可能性調査の幹事企業のご担当者様から個々の調査事業について補足説明を行っていただき、その中で、各調査事業の試行へのご協力の依頼などがありました。

６．事務局からのご連絡

ＦＣＰ事務局から下記２点についてご案内をいたしました。

① ＦＣＰ中間報告会

１１月２７日（金曜）午後に東京大学弥生講堂で開催予定です。

② 「商品情報の効率的なやりとり検討」分科会の開催予定

分科会の進め方についてアンケート･ヒアリング等を実施させていただいた上で、来年１月に第１回分科会を開催する予定としています。

７．閉会ご挨拶

最後に神井チームリーダーから閉会挨拶として、ＦＣＰの活動を盛り上げていくために、ＦＣＰの取り組み参加者間で交流の輪を広げていただくとともに、取引先などへＦＣＰの活動を説明するような機会を設けていただければ農水省としても積極的に説明に出向く予定なのでお声掛けいただきたいという旨の説明を行い、閉会といたしました。

＜配付資料＞

資料１　参加者名簿
資料２　平成 21 年度「アセスメントの効率化」研究会資料
資料３　研究会と実行可能性調査の概要説明資料
資料４　平成 21 年度 FC 倫理行動マネジメント基準策定分科会資料
資料５　アセスメント関連分科会・実行可能性調査一覧表
資料６　「食の信頼確保のための成熟度評価事業」へのご協力のお願い
資料７　平成 21 年度 FCP「商品情報の効率的なやりとり検討」分科会について

以上

資料2

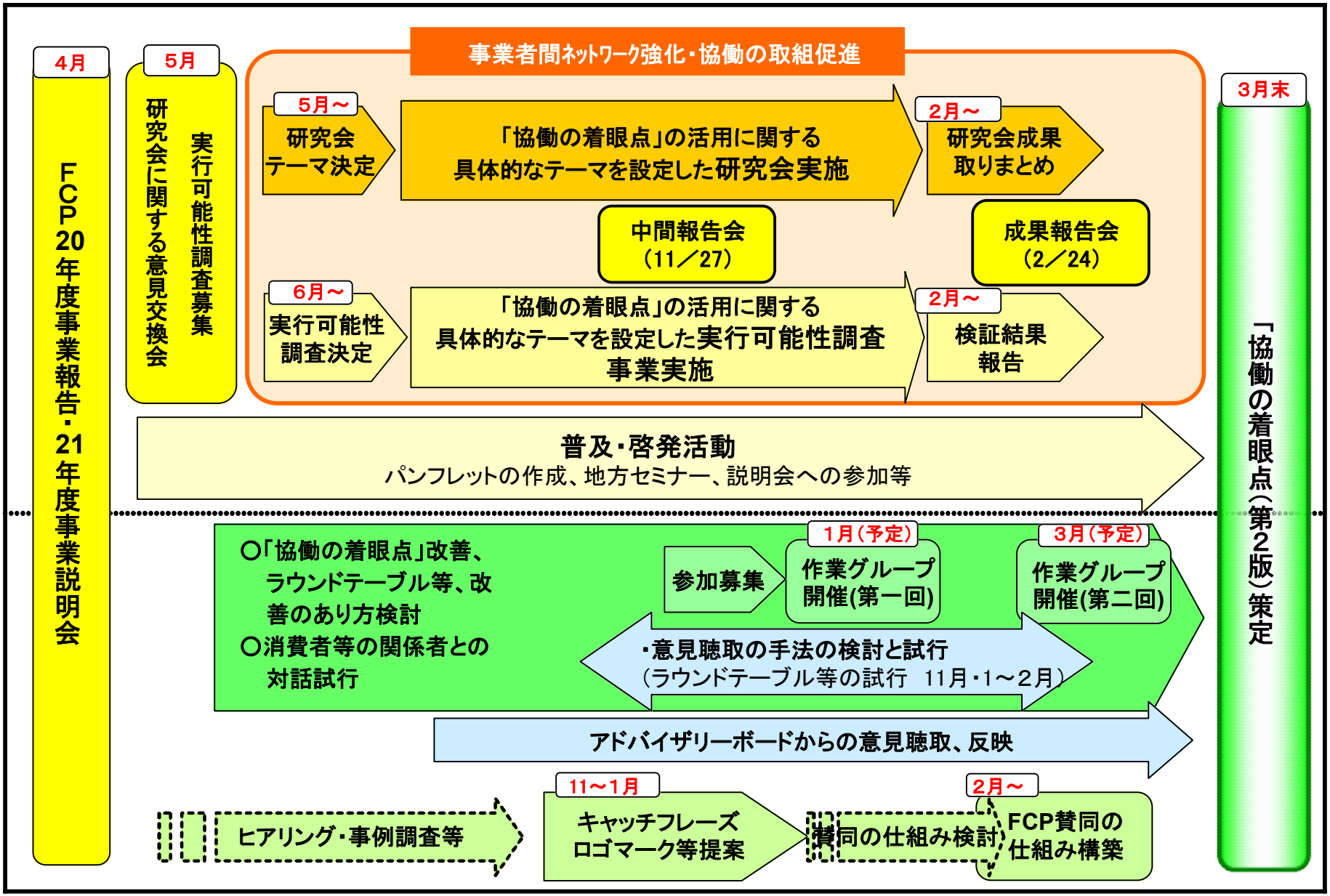
平成２１年度　FCP研究会
「アセスメントの効率化」研究会資料

平成21年9月25日

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

H21年度FCP実施期間の工程



平成21年度FCP研究会の概要

〈研究会及び分科会の目的〉
「協働の着眼点」の活用に関してテーマを設定し、研究する。

【研究会】
情報共有の場
（3～4回開催）

【分科会】
具体的検討の場

- **企業行動の情報発信**
  - 失敗から学ぶ情報発信のあり方
  - マスメディアとの意見交換のあり方
  - 消費者との対話のあり方
- **アセスメントの効率化**
  - 工場監査項目の標準化・共有化
  - 商品情報の効率的なやりとり
  - フード・コミュニケーション倫理行動マネジメント規格の策定
- **地域活性化**
  - 企業力向上の場としてのマッチング フェア・商談会の活用促進
  - 地域ブランチ
    - 三重ブランチ
    - 岩手ブランチ
    - …

【地域の状況に応じたテーマ設定】

研究テーマ

失敗から学ぶ情報発信のあり方	マスメディアとの意見交換のあり方	消費者との対話のあり方	工場監査項目の標準化・共有化	商品情報の効率的なやりとり	フード・コミュニケーション倫理行動マネジメント規格の策定	企業力向上の場としてのマッチング フェア・商談会の活用促進
事件・事故等発生時の適切な企業行動や、緊急時の情報開示、情報発信のあり方等の検討	食品事業者の取組を適切に伝達するためのマスメディアに向けた情報発信のあり方、マスメディアとの交流の場の持ち方の検討	消費者との多様な接点における対話型コミュニケーションのあり方及び「協働の着眼」を活用した対話型コミュニケーションの手法の検討	食品事業者等におけるアセスメント作業の効率化のため、工場監査における項目の標準化・共有化の検討	食品事業者等における商品情報の効率的なやり取りの実現に向けた検討	食品関連事業者の経営倫理・法令遵守マネジメント・システムの構築	企業力向上の場としてのマッチング フェア・商談会の活用促進について検討

平成21年度FCPアセスメント研究会・分科会参加者リスト

本研究会

株式会社 アイ・エス・レーティング
味の素株式会社
イオン株式会社
株式会社 イトーヨーカ堂
株式会社 内田洋行
SGSジャパン株式会社
海外貨物検査株式会社
花王株式会社
カゴメ株式会社
京セラミタジャパン株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
NPO法人 サニテーション・デザイナー協会
株式会社 産經新聞メディックス
サントリーホールディングス株式会社
敷島製パン株式会社
株式会社 シジシージャパン
株式会社 消費経済研究所
太陽化学株式会社
株式会社 高島屋
株式会社 竹中工務店
株式会社 ちぼり
株式会社 東急ストア
東京海上日動火災保険株式会社
東京サラヤ株式会社
東洋冷蔵株式会社
株式会社 ニチレイフーズ
日清オイリオグループ株式会社
株式会社 日清製粉グループ本社
株式会社 日本アクセス
日本検査キューエイ株式会社
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
財団法人日本食品分析センター
社団法人 日本能率協会
日本百貨店協会
日本マクドナルド株式会社
ハウス食品株式会社
株式会社 阪急クオリティーサポート
株式会社 ファイネット
株式会社 ファミリーマート
物産フードサイエンス株式会社
株式会社 ホンダトレーディング
株式会社 マルハニチロホールディングス
みずほコーポレート銀行
みたけ食品工業株式会社
ミツイワ株式会社
株式会社 ミツカン
株式会社 ミツカンサンミ
三菱化学メディエンス株式会社
三菱商事株式会社
明治乳業株式会社
株式会社 山武
横浜商科大学 地域産業研究所
株式会社 菱食
株式会社 ローソン
わらべや日洋株式会社

計 55企業/団体

工場監査項目の標準化・共有化分科会

株式会社 アイ・エス・レーティング
味の素株式会社
イオン株式会社
株式会社 イトーヨーカ堂
カゴメ株式会社
京セラミタジャパン株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
NPO法人 サニテーション・デザイナー協会
サントリーホールディングス株式会社
敷島製パン株式会社
株式会社 シジシージャパン
株式会社 消費経済研究所
太陽化学株式会社
株式会社 竹中工務店
株式会社 ちぼり
株式会社 東急ストア
東京サラヤ株式会社
東洋冷蔵株式会社
株式会社 ニチレイフーズ
日清オイリオグループ株式会社
株式会社 日清製粉グループ本社
株式会社 日本アクセス
日本検査キューエイ株式会社
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
財団法人 日本食品分析センター
社団法人 日本能率協会
日本マクドナルド株式会社
ハウス食品株式会社
株式会社 阪急クオリティーサポート
株式会社 ファミリーマート
株式会社 ホンダトレーディング
株式会社 マルハニチロホールディングス
みたけ食品工業株式会社
ミツイワ株式会社
株式会社 ミツカンサンミ
三菱化学メディエンス株式会社
三菱商事株式会社
明治乳業株式会社
株式会社 山武
株式会社 菱食
株式会社 ローソン
わらべや日洋株式会社

計 42企業/団体

フードコミュニケーション（FC）
倫理行動マネジメント規格策定分科会

◎ 横浜商科大学 地域産業研究所（幹事団体）
株式会社 アイ・エス・レーティング
味の素株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
社団法人 日本能率協会
三菱商事株式会社

計 6企業/団体

平成21年度FCP実行可能性調査の概要

実行可能性調査事業は、昨年度の研究会において提言された以下の6つのテーマについて、実際のビジネス現場での「協働の着眼点」活用の実行可能性を実証するものです。

①FCPポータルサイトの構築・運用

消費者が食品事業者等の「協働の着眼点」を活用した取組や効果を広く認知でき、簡便に利用できるポータルサイトを構築し、その効果を検証する。

②「協働の着眼点」を活用した活動のためのツールや教材の開発・運用

「協働の着眼点」を基にして、食品事業者等の業務内容の品質を向上させるツールや教材を開発・運用し、その効果を検証する。

③「食品事業者業務評価基準」の開発・運用

「協働の着眼点」を活用し、食品事業者等の業務を客観的に評価するとともに、その評価結果を食品事業者自らが活用し、販路拡大や資金調達等につなげる機会創出となりうる評価基準を開発・運用し、その効果を検証する。

④「協働の着眼点」を活用した活動のための人材育成プログラムの開発・運用

「協働の着眼点」を活用し、食品事業者等の業務内容の質の向上や、新たなビジネスの創出を支援する人材を育成するプログラムを開発・運用し、その効果を検証する。

⑤「地域の良い[モノ]売れる商品支援事業」モデルの構築・運用

流通業者、小売業者、商談会・マッチングフェア主催者等による「協働の着眼点」を活用した取引先食品事業者の審査基準を作成・活用し、地域の良い[モノ]発掘、その商品のブラッシュアップ、販路開拓、消費者基点での評価・改善点のフィードバック等によるPDCAサイクルを実践できる事業モデルを構築し、その効果を検証する。

⑥食の信頼性向上をテーマにした地域住民参加型活動プログラムの開発・運用

地域をフィールドにする「食」をテーマに、「協働の着眼点」を活用しながら、食の信頼性向上について学ぶ、食品事業者の向上見学プログラム、産直市を活用した食育プログラムなどを、多様な関係者が連携して、実践しやすい住民参加型地域活動プログラムとして開発し、その効果を検証する。

資料3参照

＊分科会･実行可能性調査

平成21年度
FC倫理行動マネジメント基準策定分科会資料

資料4参照

平成21年9月25日

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

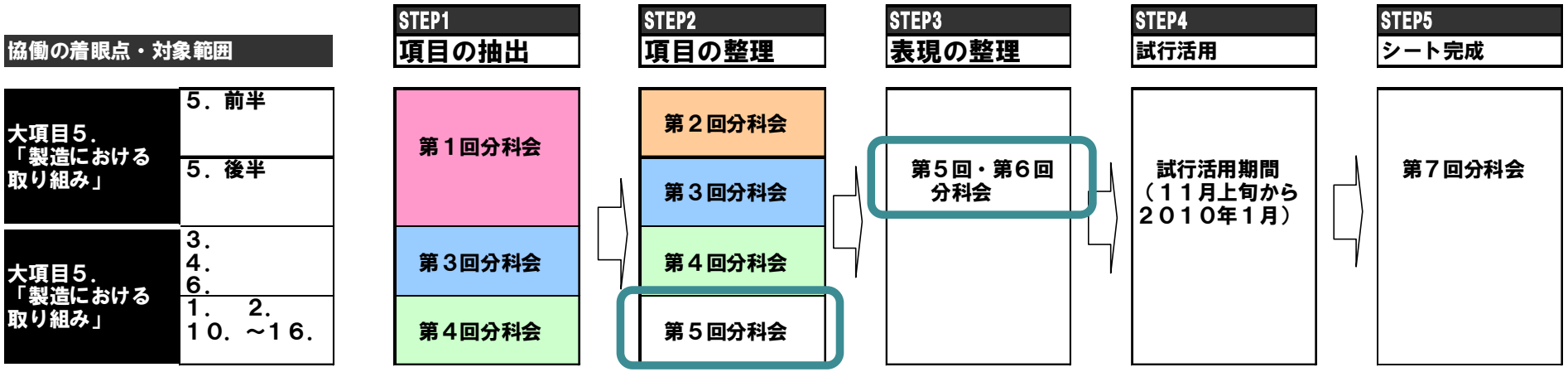
平成21年度
「工場監査項目の標準化・共有化」
の進捗状況について

平成21年9月

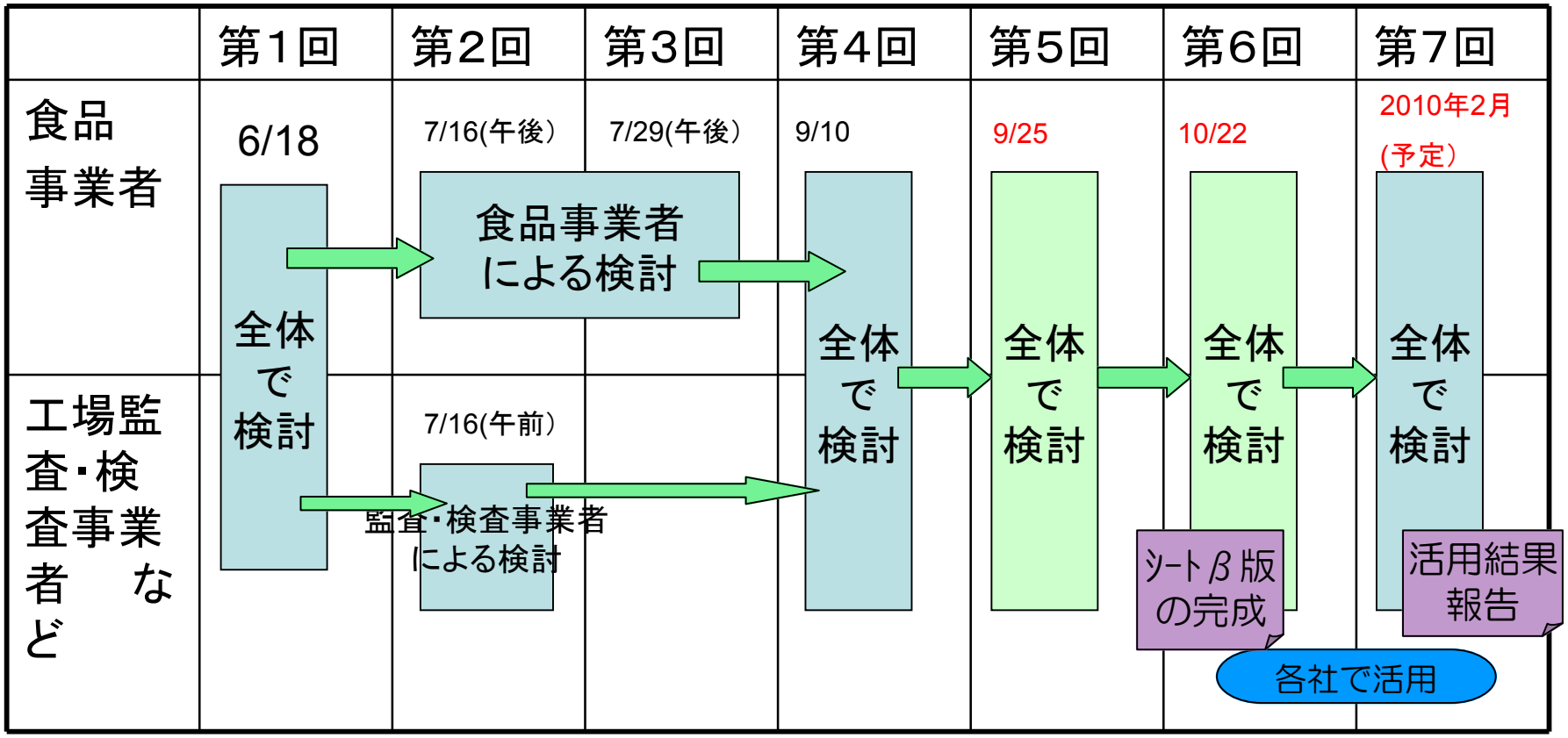
フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

分科会進捗状況


協働の着眼点・対象範囲
大項目５．「製造における取り組み」
５．前半
５．後半
大項目５．「製造における取り組み」
３．
４．
６．
１．　２．
１０．～１６．
STEP1
項目の抽出
第１回分科会
第３回分科会
第４回分科会
STEP2
項目の整理
第２回分科会
第３回分科会
第４回分科会
第５回分科会
STEP3
表現の整理
第５回・第６回分科会
STEP4
試行活用
試行活用期間（１１月上旬から２０１０年１月）
STEP5
シート完成
第７回分科会

分科会開催状況

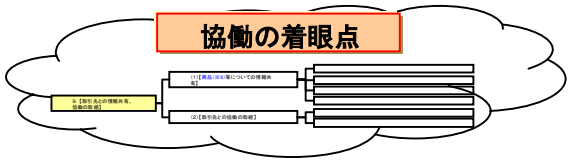

第1回
第2回
第3回
第4回
第5回
第6回
第7回
食品事業者
工場監査・検査事業者など
6/18
7/16(午後)
7/29(午後)
9/10
9/25
10/22
2010年2月(予定)
全体で検討
食品事業者による検討
7/16(午前)
監査・検査事業者による検討
全体で検討
全体で検討
全体で検討
全体で検討
シートβ版の完成
活用結果報告
各社で活用

分科会での検討方法について

工場監査項目を抽出・整理するためにグループディスカッションを実施

ステージ１

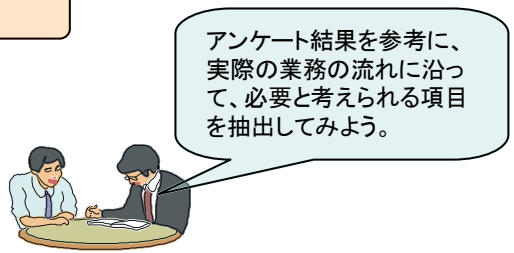
35社からのアンケート結果



ディスカッション１

工場監査項目の【抽出】

協働の着眼点（小項目）に対応する工場監査項目について、必要であると考えられる項目を抽出しました。



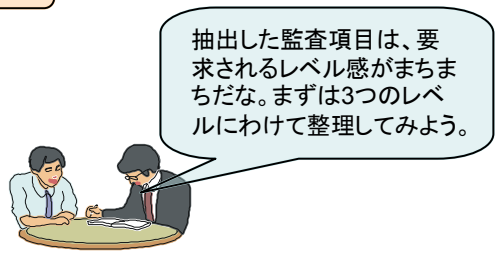
項目によっては、「食品事業者」、「監査・審査会社」を分けてディスカッションしている場合もあります。

ディスカッション２

【抽出】した工場監査項目の【整理】

抽出した監査項目について、レベル分けの整理をしました。

レベル分け　基礎項目：最低限押さえておくべき項目
条件適用項目：工場規模や業種に応じて必要となる項目
応用項目：付加価値的な情報として必要となる項目

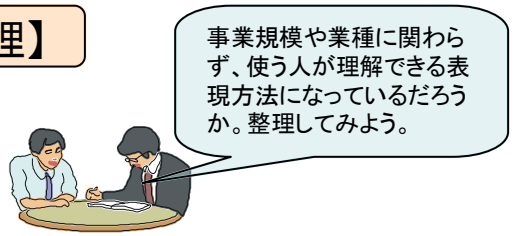


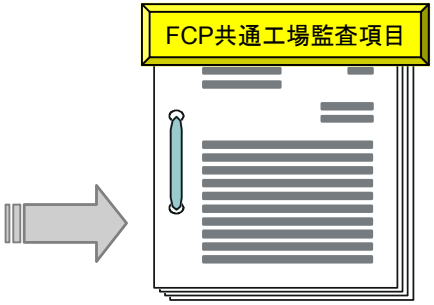
ステージ２

ディスカッション３

【整理】した工場監査項目の【表現の整理】

レベル分けした項目のうち、基礎項目とした項目について、表現方法等の見直しをしました。





「FCP共通工場監査シート」のアウトプットイメージについて

FCP共通工場監査項目　アウトプットイメージ

5. 製造における取組

（1）【製造工程の管理】　以下内容は、アウトプットイメージ用として、FCP事

① 食品製造用の設備及び器具の食品接触面を清潔に保っ	
	製造機器・器具・備品の衛生的な清掃方法の設定（策定）
	製造機器・器具・備品の清掃・洗浄を定期的な実施

② 食品製造で使用する水は飲用適であり、安全な方法で処	
	使用する水の供給方法の把握（上水、井水、地下水、貯

③ 食品に応じた加熱、冷却、乾燥及び包装を適切な条件下	
	各工程の管理基準の設定
	工程管理の測定記録の保存

「FCP共通工場監査項目」の活用について

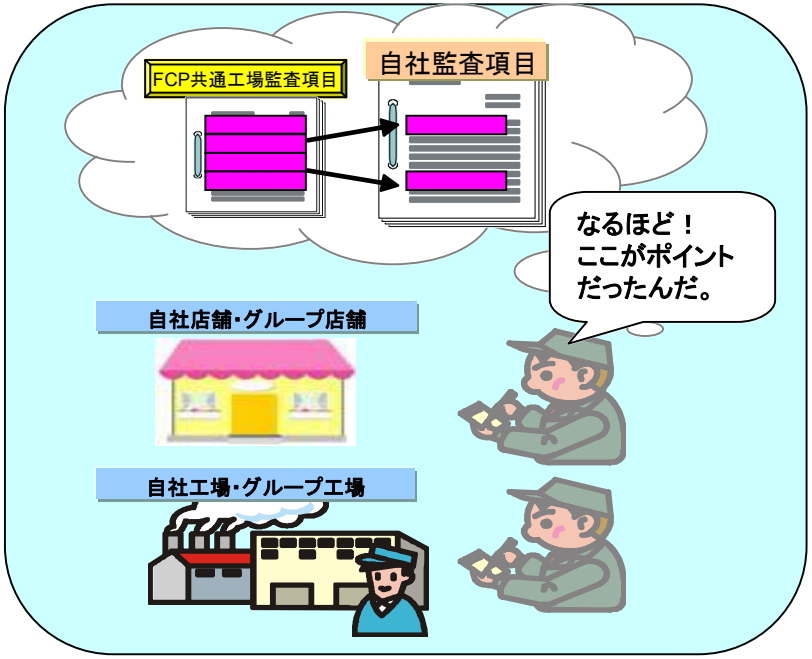
ステージ３

消費者の食への信頼向上に向けて、食品事業者同士がフードチェーンの中で、同じ目線で活動することが大切です。
「FCP共通工場監査項目」は、そのためのツールの一つです。　自社の監査項目や取引事業者の監査項目と併せてご活用ください。

【活用例1】

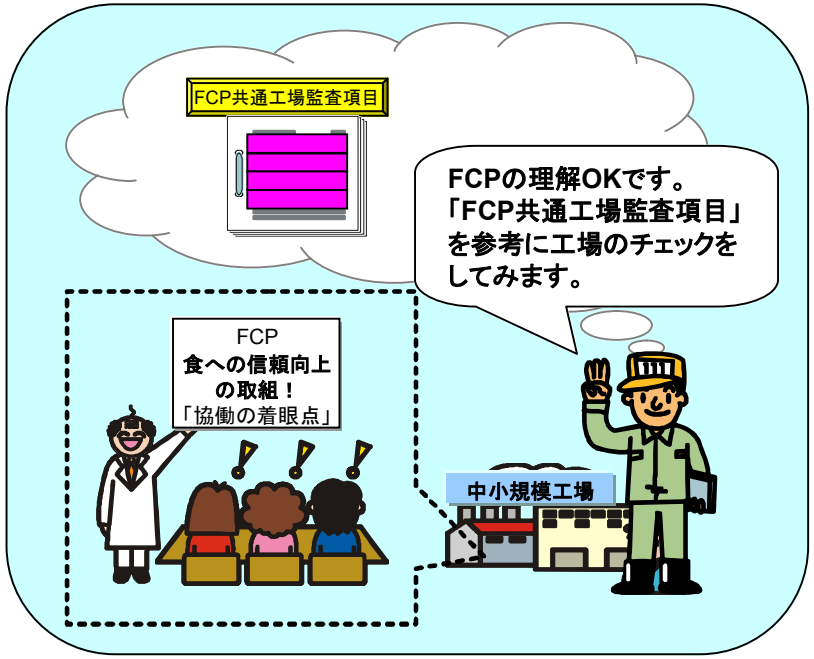
自己の取組みの見直し・改善

場面1：　自社内の監査



自社監査項目と「FCP共通工場監査項目」を照らし合わせてみた上で、自社内監査を行って頂ければ、消費者の信頼向上に向けての新たな気付き（自らの取組みの見直し・改善等）の参考となります。

場面2：　取引先工場の監査



既存の取引先（中小規模工場等）にFCPの理念を理解して頂いた上で、「FCP共通工場監査項目」を参考に監査を行うことで、取引先自らの見直し・改善等の活動につなげることができます。

「FCP共通工場監査項目」の活用について

ステージ３

消費者の食への信頼向上に向けて、食品事業者同士がフードチェーンの中で、同じ目線で活動することが大切です。
「FCP共通工場監査項目」は、そのためのツールの一つです。　自社の監査項目や取引事業者の監査項目と併せてご活用ください。

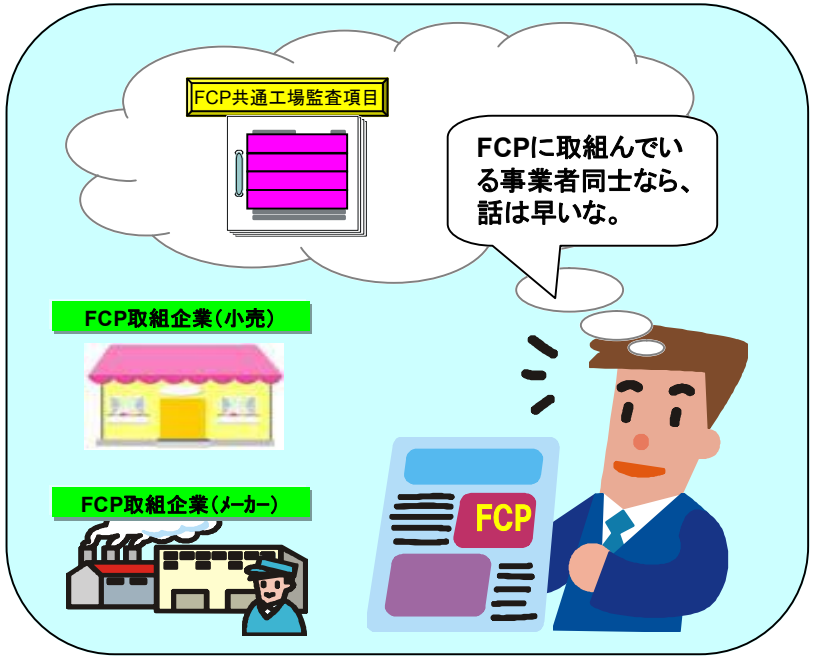
【活用例2】

取引コストの改善

場面3：新規取引時の監査（初回監査）

新規取引においては、企業姿勢を含めた監査が必要となります。FCPへの取組みと共に、「FCP共通工場監査項目」を共有化して下さい。事前の相互理解があれば、監査の効率化が進みます。

場面4：FCP賛同企業間の監査



FCPに賛同している事業者同士で、「FCP共通工場監査項目」を共有化した上で、取引先工場監査を行って下さい。相互理解の深まりと共に監査の効率化が進みます。

平成21年度
企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用促進分科会の進捗状況について

平成21年9月

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用促進分科会概要

企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用促進分科会		
目的	○「協働の着眼点」を活用しマッチングフェアや商談会においてバイヤーと食品事業者との情報のやり取りの効率化を図る「商材情報シート」を開発する。 ○商品開発、営業活動におけるPDCAサイクルのスタートポイントとして、マッチングフェア・商談会を活用することで企業力向上を図る具体的方策を検討する。	
進捗	分科会で情報共有と意見交換を行う。（効率的な議論集約のため、ワーキンググループを組織）	
	第1回分科会 H21.7.15	概要： マッチングフェア・商談会の課題と改善点の整理、「商材情報シート」の課題と改善点の整理を実施。
	第1回WG H21.8.5	概要： 「商材情報シート」案について説明し意見交換を実施。
	第2回分科会 H21.9.11	概要： 「展示会・商談会シート」案、シート（案）を活用した展示会・商談会の運用について意見交換を実施。
今後の展開		分科会は全3回を実施予定。（ワーキンググループは全2回を実施予定） 9月を目処に「商材情報シート」を作成し、10月以降「商材情報シート」を実際のマッチングフェア・商談会にて活用・検証する。

展示会・商談会シート（案）

展示会・商談会シート（案）

記入日：

商品特性と取引条件

商品名（1）			
最もおいしい時期（2）		賞味期限・消費期限(3)	
主原料産地 （漁獲場所）(4)		JANコード(5)	
内容量(6)		希望小売価格(7)	
1ケースあたり入数(8)		保存温度帯(9)	
発注リードタイム(10)		販売エリアの制限(11)	有 ・ 無
最低ケース納品単位(12)		ケースサイズ（重量）(13)	縦 ×横 ×高さ（ kg）
認証・認定機関の許認可 （商品・工場等）(14)	有機JAS HACCP ISO JGAP その他（ ）		

ターゲット(15)	売り先 （複数可）	1)フードサービス 2)商社・卸 3)メーカー 4)小売 5)ホテル・宴会・レジャー 6)その他（ ）
	お客様（性別・年齢層など）	
利用シーン(16) （利用方法・調理例等）		
商品特徴(17)		

商品写真 (18)

商品写真

一括表示

出展企業紹介

出展企業名(19)			
年間売上高(20)		従業員数(21)	
代表者氏名(22)			
メッセージ (23)	顔写真		
ホームページ(24)			
会社所在地(25)			
工場所在地(25)			
担当者(26)		e-mail (26)	
TEL (26)		FAX (26)	

製造工程（農林水産品の場合は、生産工程）等アピールポイント (27)

工場写真
（外観）

工場写真
（内部）

工場写真
（清掃状況）

品質管理情報

商品検査の有無(28)	有 ・ 無 （「有」の場合⇒検査項目： ）	
衛生管理への取組(29)	製造工程の管理	
	従業員の管理	
	施設整備と管理	
危機管理体制 【担当者・連絡先／記録】(30)		

※（ ）内数字は、シート項目の通し番号。

平成21年度
実行可能性調査の進捗状況について

資料5参照

平成21年9月

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

資料3－1

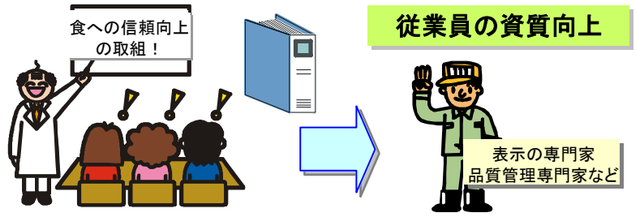
イラストで見る「協働の着眼点」の活用

【協働の着眼点とは】
食に携わる関係者が、それぞれの立場で、また連携して消費者の信頼を高めていくために着目すべき、食品事業者の行動のポイント

自社の取組の充実

経営全体をトータルで見て、自らの強み、弱みを把握し、中長期的な経営戦略を立てることができました。

従業員の資質向上



経営方針の精査・質の向上

工場・店舗の取組の見直し・改善

取引先との情報収集・発信の効率化

監査作業の効率化

バイヤーと食品事業者との情報交換の効率化

農商工連携の取組を効果的に展開

消費者コミュニケーションの充実

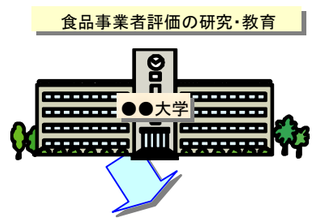
食品事業者と消費者間の相互理解の促進

消費者の食品事業者の取組に対する理解の深化

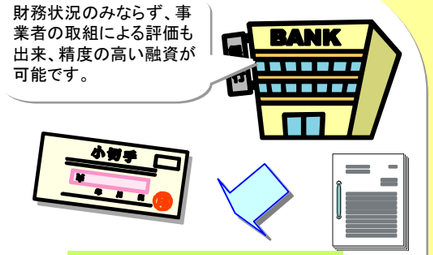
食品事業者の取組に関する情報の効率的な集約・発信

第三者視点の活用による企業力強化

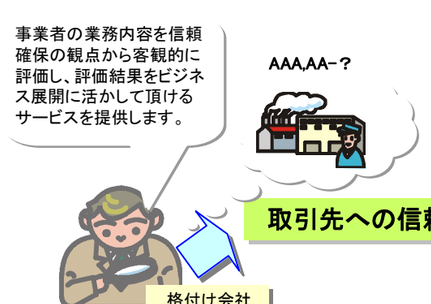
食品事業者の知識・技術の広がり



食品事業者への融資機会の拡大

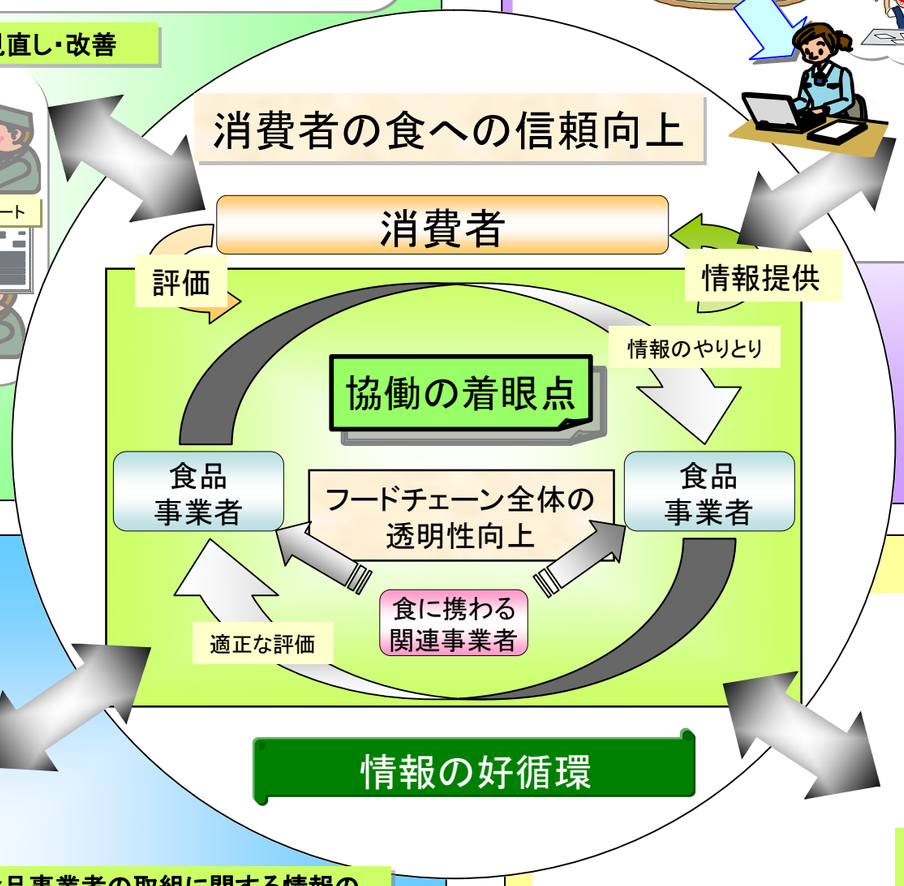


取引先への信頼向上



ブランド戦略のブラッシュアップ

情報の好循環



資料３－２

■「協働の着眼点の活用」と研究・実行可能性調査の関係

活用方法・シーン等		研究会分科会・事業名称（調査主体）	研究成果・アウトプット
自社の取組の充実	経営方針の精査・質の向上	「食品事業者（経営陣）向け研修プログラム」の開発 （日本HACCPトレーニングセンター）	「協働の着眼点」を活用した食品事業者等の経営層を対象とした教育プログラムの開発
		地域活性化研究会 「FCP 三重ブランチ」	食品企業経営者を対象に企業価値向上のための研修会を実施し、その中で「協働の着眼点」の効果的な活用方法や、それを反映した食品事業者向け研修プログラムを研究
	職員の資質向上	「協働の着眼点」を活用した活動のためのツールの開発 （三菱化学メディエンス（株））	「協働の着眼点」を活用した食品事業に従事するパート・アルバイト従業者を対象とした教育ツールの開発
	工場・店舗の取組の見直し・改善	「協働の着眼点」を活用したセルフアセスメントシートの開発と運用 （（株）阪急クオリティーサポート）	「協働の着眼点」を活用した中小規模の食品事業者が自ら食の安全・安心のための課題を見出すことができるセルアセスメントシートの開発・運用
取引先との情報収集・発信の効率化	監査作業の効率化	アセスメントの効率化研究会 「工場監査項目の標準化・共有化分科会」	食品事業者等におけるアセスメント作業の効率化のため工場監査における項目の標準化・共有化検討を行い、協働の着眼点に沿った、「工場監査シート」を作成
	バイヤーと食品事業者との情報交換の効率化	地域活性化研究会 「企業力工場の場としてのマッチングフェア・商談会の活用促進分科会」	「協働の着眼点」を活用したマッチングフェアや商談・展示会においてバイヤーと食品事業者との情報のやり取りの効率化を図る商材情報シートを開発
	農商工連携の取組を効果的に展開	「地域の安全・良いモノ発掘マッシュアッププロジェクト」 （（株） CTU）	カタログ販売の対象商品について「協働の着眼点」を活用した評価を行い、実際に販売することで顧客満足度やカタログ販売事業上の品質向上等の多面的な効果について検証
		全国地方の事業者と都市消費者とを対象にした「地域の良い〔モノ〕売れる商品支援事業」のモデルの構築と運営事業 （（有）ケンプランニングオフィス）	全国の地域産品を首都圏で販売する「とれたて村」の参加事業者に対し、「協働の着眼点」を活用した商品評価を実施し、地域の良いモノを作り販売する事業モデルの構築
第三者視点の活用による企業力強化	食品事業者の知識・技術の広がり	アセスメントの効率化研究会 「フード・コミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格の策定分科会」	協働の着眼点を前提（ベース）として、CSRからの視点、法令遵守からの視点、 経営者の姿勢、経営組織体制、製品実現の基準の存在と実施内容の確認 などを盛り込んだ、経営倫理・法令遵守マネジメント・システムの構築
	食品事業者への融資機会の拡大	地域活性化研究会 「FCP 岩手ブランチ」	FCP モデルに取組む企業活動にメリットを付与できるサービス、制度の設計に取組む ○金融支援、商品開発支援、衛生管理・品質管理支援、マッチング支援など
	ブランド戦略のブラッシュアップ	地域活性化研究会 「FCP 岩手ブランチ」	企業活動を消費者に向けて「見える化」したフードチェーンの構築とそのモデルの創出
	取引先への信頼向上	「協働の着眼点」を活用した食の安全認証規格開発事業 （SGSジャパン（株））	「協働の着眼点」を活用した食品購買側企業の要求事項をまとめた認証基準の開発・運用
		食の安全取り組み成熟度の評価事業 （（株）アイ・エス・レーティング）	「協働の着眼点」を活用した食品事業者のマネジメント成熟度を評価するレーティングの仕組みの開発
消費者コミュニケーションの充実	食品事業者と消費者間の相互理解の促進	企業行動の情報発信研究会 「消費者との対話のあり方分科会」	消費者との多様な接点における対話型コミュニケーションのあり方及び「協働の着眼点」を活用した対話型コミュニケーションの手法の検討
	消費者の食品事業者の取組に対する理解の深化	”食の安全・安心”見える化ツアーのための商品モデル検討事業 （(財)日本システム開発研究所）	「協働の着眼点」を活用した消費者の工場、店舗等の見学に導入可能な食の安全・信頼確保のための取り組みを伝えるツアープログラムの開発・試行
	食品事業者の取組に関する情報の効率的な集約・発信	FCPポータルサイトの構築・運用 （エヌ・ティ・ティレゾナント（株））	消費者が、食品事業者等の「協働の着眼点」を活用した取り組みや効果を広く認知でき、簡便に利用できるポータルサイトの環境 goo 内に構築・運用

（注）各事業の活用方法・シーンの分類については、資料３－１のカテゴリーに応じて、FCP事務局が整理したものです。

＜アセスメント研究会関連分科会および実行可能性調査等一覧＞

資料５

➢全てのアウトプットが「協働の着眼点」をベースとしている
→「協働の着眼点」を共通言語としているため、どのアウトプットも考え方が一貫しており、「協働の着眼点」に立ち戻ることができる
➢分科会、実行可能性調査のアウトプットは基本的に公開（実行可能性調査事業によっては、非公開とする内容も部分的にある）
→FCPの取組に賛同する事業者間で共有し活用が可能

	区分	分科会名・調査事業名	運営	事業の概要	協働の着眼点 参照箇所 ◎主に参照　○一部参照				公表予定成果物	今後の予定	
1	分科会	フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格策定分科会	FCP事務局 （横浜商科大学）	「協働の着眼点」をベースに、「コンプライアンスの基本」「製品実現の基準」「取組事例」という構成で、実行性のあるコンプライアンス体制をいかに構築するかについて整理した規格を策定する。	1.	◎	9.	○	・FC倫理行動マネジメント規格 <規格の活用想定局面> ・ 小売業者の取引先選定の基礎的判断資料 ・ 原材料等の企業間の取引における取引先選定の基礎的判断資料 ・ 金融機関が行う取引先紹介業務の企業判断資料 ・ 金融機関の融資判断資料 ・ 格付け等の判断基準 ・ 消費者の企業判断材料　など	2009年10月 11月～2010年 1月 2010年 2月	FC倫理規格案完成 規格説明・事例調査実施 FC倫理規格・出版
					2.	◎	10.	○			
					3.	○	11.	○			
					4.	○	12.	○			
					5.	○	13.	○			
					6.	○	14.	○			
					7.	○	15.	○			
					8.	○	16.	○			
2		「工場監査項目の標準化・共有化分科会」	FCP事務局	食品事業者等におけるアセスメント作業の効率化のため工場監査における項目の標準化・共有化検討を行い、協働の着眼点に沿った、「工場監査シート」を作成する。	1.	◎	9.		・工場監査シート <工場監査シートの活用想定局面> ・ 自社の工場監査の見直しのためのツール ・ 取引先の工場監査 ・ 新規取引開始時の工場監査　　など	2009年10月下旬 11月～2010年 1月 2010年 2月	工場監査シートβ版完成 工場監査シート試行期間 工場監査シート試行結果評価
					2.	◎	10.	◎			
					3.	◎	11.	◎			
					4.	◎	12.				
					5.	◎	13.				
					6.	◎	14.	◎			
					7.	◎	15.	◎			
					8.		16.	◎			
3	地域活性化研究会内分科会	地域活性化研究会 「企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会活用促進分科会」	FCP事務局 （日本能率協会）	「協働の着眼点」を活用したマッチングフェアや商談・展示会においてバイヤーと食品事業者との情報のやり取りの効率化を図る商材情報シートを開発する。	1.	◎	9.		・商談会用マッチングシート <マッチングシートの活用想定局面> ・マッチングフェアや商談会におけるバイヤーと食品事業者との情報のやり取りの効率化手段として使用	2009年10月 11月 12月 2010年 1月 2月	商談会シートの商談会における適用（1回目） 商談会シートの商談会における適用（2回目） 商談会シート適用結果の整理と課題抽出 商談会シートのブラッシュアップ 成果のとりまとめと次年度に向けた課題の整理
					2.	◎	10.	◎			
					3.	◎	11.				
					4.	◎	12.	◎			
					5.	◎	13.	◎			
					6.	◎	14.	◎			
					7.		15.	◎			
					8.		16.	◎			
4	実行可能性調査	「協働の着眼点」を活用したセルフアセスメントシートの開発と運用	（株）阪急クオリティーサポート	「協働の着眼点」を活用した中小規模の食品事業者が自ら食の安全・安心のための課題を見出すことができるセルアセスメントシートの開発・運用を行う。	1.		9.	○	・ セルフアセスメント用チェックシート <成果物の活用想定局面> ・中小規模事業者の工場において、セルフアセスメントを行う際に使用	2009年 9月 10月 11月 2010年 1月	セルフアセスメント第１回試行 セルフアセスメント第１回試行結果・第三者評価 従業員支援ツールの開発 セルフアセスメント第２回試行、結果の整理
					2.		10.				
					3.	◎	11.	○			
					4.	◎	12.	○			
					5.	◎	13.				
					6.	○	14.	○			
					7.		15.				
					8.		16.				

各分科会・実行可能性調査事業における協働の着眼点の参照箇所、成果予定物、スケジュールについては、本日時点での予定であり、今後変更となる可能性があります。

	区分	分科会名・調査事業名	運営	事業の概要	協働の着眼点 参照箇所 ◎主に参照　○一部参照	公表予定成果物	今後の予定	
5	実行可能性調査	「協働の着眼点」を活用した活動のためのツールの開発	三菱化学メディエンス（株）	「協働の着眼点」を活用した食品事業に従事するパート・アルバイト従業者を対象とした教育ツールを開発する。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ◎ 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. ◎ 14. ◎ 15. 16.	・ パート・アルバイト向けマニュアル ・ 講師用テキスト ・ 効果測定用理解度テスト ＜成果物の活用想定局面＞ ・ 新規配属となる従業員（特にパート、アルバイト）に対する導入教育 ・ 従業員（特にパート、アルバイト）のレベルアップのための教育	2009年 9月 12月 2010年 1月	マニュアル・テキスト・テスト完成 研修・テスト試行 マニュアル・テキスト類見直し
6		「協働の着眼点」を活用した認証規格開発事業	SGSジャパン（株）	「協働の着眼点」を活用した食品購買側企業の要求事項をまとめた認証基準の開発・運用を行う。	1. ○ 2. ○ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ○ 7. ○ 8. ○ 9. ○ 10. ○ 11. ○ 12. ○ 13. ○ 14. ○ 15. ○ 16. ○	・ 認証規格 ＜認証規格の活用想定局面＞ ・購買側事業者において、新規取引開始の可否や、商品取扱い上の注意点を検討する際に使用。	2009年 9月 10月 10月～2010年1月 2010年 2月	事業者ヒアリング 認証規格案の作成 認証規格案にもとづく試行 認証規格案の見直し
7		食の安全取り組み成熟度の評価事業	（株）アイ・エス・レーティング	「協働の着眼点」を活用した食品事業者のマネジメント成熟度を評価するレーティングの仕組みを開発する。 ※　本事業では、年商400億円以下の食品事業者からの依頼にもとづき格付けを試行し、評価基準・評価手法の検証を行います。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎ 9. ◎ 10. ◎ 11. ◎ 12. ◎ 13. ◎ 14. ◎ 15. ◎ 16. ◎	・ 格付け評価基準 ・ 格付評価手法 ＜成果物の活用想定局面＞ ・経営者や現場責任者が自社のリスクマネジメント体制を点検する際に使用 ・格付けを事業者間の品質確認基準として利用 ・格付けを公表してステークホルダーに積極的な取り組み姿勢をアピールする材料として使用	2009年 9月 11月 2010年 1月	評価基準案の見直し 評価方法の策定 個社格付けの試行
8		「食品事業者（経営陣）向け研修プログラム」の開発	日本HACCPトレーニングセンター	「協働の着眼点」を活用した食品事業者等の経営層を対象とした教育プログラムを開発する。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎ 9. ◎ 10. ◎ 11. ◎ 12. ◎ 13. ◎ 14. ◎ 15. ◎ 16. ◎	・ 経営者向け研修プログラム ・ 経営者向け研修用テキスト ＜成果物の活用想定局面＞ ・経営者向け教育に使用 ・実施者が有する人材プール（コンサルティングファーム）によるコンサルティングサービスに使用	2009年 9月 10月 11月	講師用テキスト作成 プログラム内容の第三者レビュー 経営陣向けテキストの作成
9		全国地方の事業者と都市消費者とを対象にした「地域の良い[モノ]売れる商品支援事業」のモデル構築と運営事業	（有）ケンプランニングオフィス	全国の地域産品を首都圏で販売する「とれたて村」の参加事業者に対し、「協働の着眼点」を活用した商品評価を実施し、地域の良いモノを作り販売する事業モデルを構築する。	1. 2. 3. ◎ 4. 5. ◎ 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16.	・「とれたて村」取引事業者が使用するセルフチェックシート ＜成果物の活用想定局面＞ ・ 小売りにおいて重要なポイントを絞り込んだチェックシートを使い、セルフチェックを実施する。 ・「とれたて村」では各取引先のセルフチェック結果を活用し、今後の取引の判断材料とする。	2009年10月 11月 12月	チェック項目の確定 取引先におけるセルフチェックの実施 「とれたて村」側でのセルフチェック結果の活用

各分科会・実行可能性調査事業における協働の着眼点の参照箇所、成果予定物、スケジュールについては、本日時点での予定であり、今後変更となる可能性があります。

	区分	分科会名・調査事業名	運営	事業の概要	協働の着眼点 参照箇所 ◎主に参照　○一部参照	公表予定成果物	今後の予定	
10	実行可能性調査	地域の安全・良いモノ発掘マッシュアッププロジェクト	(株)CTU	カタログ販売の対象商品について「協働の着眼点」を活用した評価を行い、実際に販売することで顧客満足度やカタログ販売事業上の品質向上等の多面的な効果について検証を行う。	1. ◎　9. ◎ 2. ◎　10. ◎ 3.　11. ◎ 4. ◎　12. ◎ 5. ◎　13. ◎ 6. ◎　14. ◎ 7. ◎　15. ◎ 8. ◎　16. ◎	・アンケートWEBシステム ＜成果物の活用想定局面＞ ・新規取引開始時に、取引を希望する事業者が、WEBにアクセスしてアンケートに回答を行なう。取引相手は、安全・安心面における初期スクリーニングの判断材料として使用する。	2009年 9月 10月 11月 2010年 2月	アンケート項目の検討 WEBシステムの開発 アンケート項目の確定 アンケートの実施 評価結果の分析

■備考　協働の着眼点・大項目構成

各分科会・実行可能性調査事業における協働の着眼点の参照箇所、成果予定物、スケジュールについては、本日時点での予定であり、今後変更となる可能性があります。

資料６

平成２１年９月２５日

アセスメント研究会各位

フード・コミュニケーション・プロジェクト運営事務局

フード・コミュニケーション・プロジェクト実行可能性調査事業
「食の信頼確保のための成熟度評価事業」へのご協力のお願い

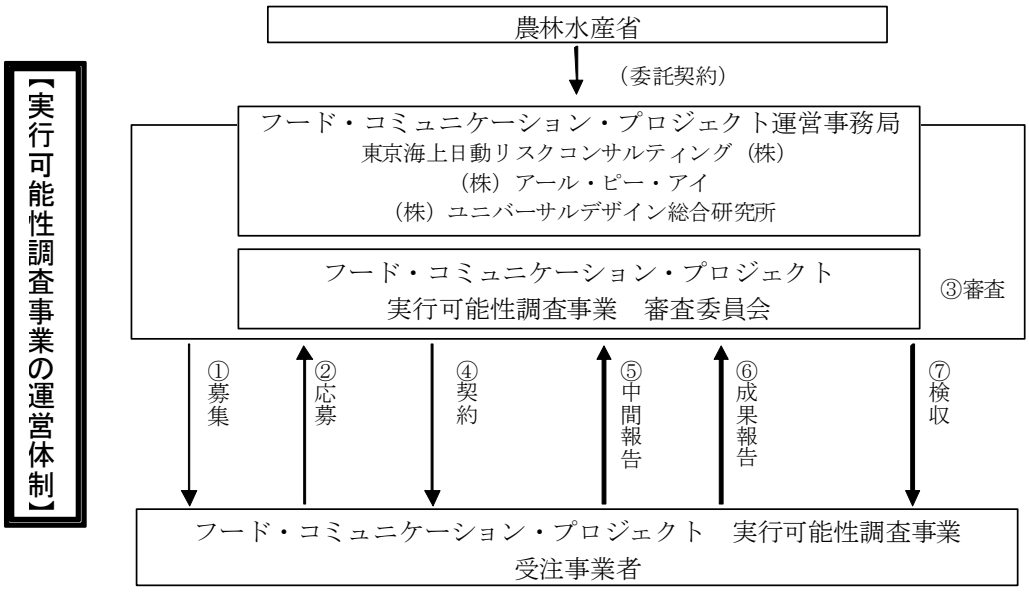
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

私ども、フード・コミュニケーション・プロジェクト運営事務局（以下「運営事務局」という）は、農林水産省から平成２１年度フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下「FCP」という）を受託し、その運営を実施しております。今年度、その FCP において下記を目的とした実行可能性調査事業を実施しております。

この FCP は、消費者ニーズが多様化するなか、「食」に対する信頼向上が大きな課題となっている中、「食」に対する消費者の信頼向上のため、一律の規制ではなく、意欲的な食品事業者の取組の活性化により、消費者の信頼向上を図ることを目指し、平成２０年度から立ち上げ、３カ年計画で進めております。

平成20年度においては、食品事業者の行動の「見える化」をテーマに取組を推進し、その成果の一つとして、食品事業者等が着目すべき行動のポイントを取りまとめた「協働の着眼点」を策定いたしました。今年度はその「協働の着眼点」を活用し、その実行可能性を検証する調査事業を行うことで、「協働の着眼点」の改善や活用に関するひな形等を共有し、「協働の着眼点」を活用した活動の促進を図ることを、本調査事業の目的としております。

本調査事業においては、運営事務局が「協働の着眼点」を活用した先導的な取組を募集、審査し、採択された企業・団体との契約から検収まで、調査事業全体の運営を統括しており、本年度は9つの事業を採択いたしました。



食の信頼確保のための成熟度評価事業

その中の1つの調査事業である「食の信頼確保のための成熟度評価事業」を株式会社アイ・エス・レーティング様にお願いしております。

「食の信頼確保のための成熟度評価事業」において、食品事業者を対象に、株式会社アイ・エス・レーティング様が作成した評価基準（暫定版）を用いて、実際に食の信頼確保に向けた取組度合いを評価する簡易的な格付けを行い、評価基準の妥当性を検証する予定です。食の信頼確保に向けた取組度合いを確認できる機会でもありますので、調査事業へのご協力をいただけますと幸いでございます。

「食」に対する消費者の信頼向上を図るための取組の一環である「食の信頼確保のための成熟度評価事業」へのご協力をよろしくお願いいたします。

◎フード・コミュニケーション・プロジェクト ホームページ

URL：http://www.food-communication-project.jp/info/index.html

◎「協働の着眼点」とは

URL: http://www.food-communication-project.jp/aim/index.html

◎平成２１年度 フード・コミュニケーション・プロジェクト 実行可能性調査事業選定結果について

URL:http://www.food-communication-project.jp/pdf/20090701_news.pdf

以上

【ＦＣＰに関するお問い合わせ先】
ＦＣＰ運営事務局
東京海上日動リスクコンサルティング株式会社
宇田川（うだがわ）・浅海(あさみ)
〒100-0005　東京都千代田区丸の内 1-2-1 東京海上日動ビル新館 8 階
Tel: 03-3240-1905
E-mail:　m.udagawa@ tokiorisk.co.jp
katsumasa.asami@tokiorisk.co.jp

食の信頼確保のための成熟度評価事業

平成２１年９月２５日

アセスメント研究会各位

（株）アイ・エス・レーティング

～食の信頼確保に向けた格付基準妥当性検証へのご協力のお願い～

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引立てを賜りまことにありがとうございます。

さて、この度弊社では、農林水産省平成２１年度フード・コミュニケーション・プロジェクト（FCP）実行可能性調査事業（詳細は別紙参照）として、「食の信頼確保のための成熟度評価事業」を受託したことに伴い、「協働の着眼点」をベースに食品事業者における食の信頼確保のための成熟度をはかる格付基準を策定し、食品事業者の食の信頼確保のための取組状況を評価することを目的とした格付け事業を実施するため、その評価方針、手法等を策定しております。

この策定作業の一環として、今般、食品事業者の皆様を対象に、弊社が作成した評価基準（暫定版）を用いて、実際に簡易な格付けを行い、格付基準の妥当性を検証致します。この取組を通じて『食の信頼確保に向けた取組の見える化を通じた、ステークホルダーとの建設的な関係構築』に資する格付基準作りを行う予定でおります。

今回ご協力頂きました食品事業者の皆様には、格付結果をフィードバック致します。今後の業務改善に有効な指標としてお役立て頂けるものと考えております。今回は、食の信頼確保に向けた取組度合いを確認できる機会ですので、是非、ご協力頂けますようお願い申し上げます。

ご協力頂ける事業者の皆様におかれましては、下記要領をご参照のうえ、お申し込み頂けますようお願い申し上げます。なお、エントリー件数が予定の１００件を超えた時点で、お申し込みを締め切らせて頂く場合が御座いますので、予めご了承下さい。

１．今回の検証対象事業者（ご協力頂きたい事業者）

(1) 年商	４００億円以下
(2) 業種	原則として食品製造業 （注）卸売業・小売業の方のご希望は、個別にご相談させて頂きます。
(3) 分散	多くの食品事業者と取引関係がある企業（金融機関など）から複数の事業者をご紹介頂く場合は、地域・規模、取組度合などの分布にご留意頂き、できるだけ広い分布で候補をご紹介頂けますようお願い申し上げます。 （注）地域金融機関におかれましては、主たる事業エリアに所在する食品事業者のご紹介をお願い申し上げます。

２．ご協力頂く事業者の負担

(1) 格付用アンケート記入の作業負荷	２時間程度（場合により６時間） （注）約２００項目からなる格付用アンケート用紙(Excel シート)に、現在の取組み内容を記載頂きます。質問形式は、基本的に「[Yes：実施している]または「No.：実施していない」の選択式です。弊社のこれまでの経験では、アンケートへの記入に必要な時間は２時間程度と想定します。ただし、記入頂く方により、（現状を調べながら記入する場合など）６時間程度を要することが御座います。なお、質問項目は「協働の着眼点」（下記 URL 参照）がベースとなります。アンケートの実施時期は、１１月初旬から１２月中旬を見込んでおります。なお、今回ご案内しているアンケートのみによる評価に加え、ご希望者の事業者５～６社に対して別途取組状況の現地確認を行った本格的な評価（格付結果は AAA 等の大文字表記）を実施する予定です。その場合は１日（６時間程度）の協力

	をお願いすることとなります。なお、「協働の着眼点」については次のＵＲＬをご参照下さい。また、詳細な格付評価項目のご提供は、ご協力頂いた皆様を対象に、１０月２６日（月）前後を予定しております。 （URL:http://www.food-communication-project.jp/pdf/aim04_m04.pdf）
(2)　費用	今回実施する成熟度評価事業における格付費用は無償とさせて頂きます

３．ご協力頂く事業者のメリット

(1) 格付結果のフィードバック	次のフィードバックをご協力頂く事業者各社に行う予定です。 ・格付符号（aaa 等で小文字表記）、評価結果の相対位置（ﾚｰﾀﾞｰﾁｬｰﾄ等） ・評価できる項目、改善の余地がある項目 （注）格付符号はアンケート調査のみによる評価結果であることを明記するために小文字で表記して、現地調査を行ったうえで付与する格付け（大文字表記）と区別できるようにしております。また、業務改善に際して、何をどこまで実施すれば良いのか？――フィードバック結果を有効にご利用頂くことで、更なる信頼性の向上に寄与できると想定しております。なお、フィードバックは来年３月末までに完了する予定ですが、アンケートへの記載内容に不備（例えば未記入が多い）がある場合は、フィードバックができない場合がございますので、予めご了承下さい。また、格付制度が定着すれば別紙のような格付けの利用が将来的に見込めると想定しております。（詳細は「別紙３」をご参照下さい。）

４．格付結果等の公表について

(1) 企業が特定できる情報	企業名、格付結果及び格付付与の過程で入手した情報の公表はご協力頂いた事業者の判断に基づきます。 （注）ご協力いただいた事業者が自ら格付結果の公表を希望する場合は、今回の格付けの位置付けの注記を付すなど、公表形式については別途ご案内致します。なお、最終的に評価基準が固まり、ビジネスとして立ち上げた場合の結果とは異なる可能性がありますのでご留意下さい。
(2) 企業が特定できない情報	企業名を伏せた（企業が特定できない形で）結果は調査報告として原則公開致します。具体的には、複数企業の評価結果を集計した統計データや事前に公表の同意を得た内容については改めてご了解を得ずに公表致します。ただし、個別の調査事項に関する文章表現など企業を特定しかねない表現についてはご協力いただいた事業者の同意を得たうえで公表致します。

５．お申込み方法

(1) 方法	弊社（下記連絡先）にご協力頂ける旨を、エントリーシート（別紙１）に記載のうえ、E-mail にてご送付願います。 （注）エントリー完了ののち、具体的な事業内容をご説明させて頂いたうえで、作業手順や格付の評価項目（格付用アンケート）を弊社より E-mail にてお送り致します。
(2) 連絡先	株式会社アイ・エス・レーティング E-mail：FCRating@israting.com 〒105-0001　東京都港区虎ノ門 3-7-10　ランディック虎ノ門ビル２階 格付部　食の信頼確保のための成熟度評価事業担当 TEL：03-6430-0472　　FAX：03-6430-0473
(3) 期限	平成２１年１０月３０日（金）まで

以上

エントリー・シート

格付基準妥当性検証にご協力頂ける事業者の方は、以下の様式に必要事項をご記入の上、弊社（下記）へ E-mail にてお申し込み願います。

	お申込者ご連絡先
貴社名	
業種名	
部署名	
役職名	
氏名	
所在地	
電話番号	
E-mail	

	格付対象
貴社名	
業種名	
部署名	
役職名	
氏名	
所在地	
電話番号	
E-mail	

※ お申込者と格付対象が同様の場合は、お申込者ご連絡先（上段）のみ記載下さい。

※ 複数の事業者をご紹介頂く場合は、当エントリー・シートの様式以外に一覧表（例えば Excel シート）でのエントリーも可能です。

※ ご紹介者に取り纏め頂いてアンケート結果を回収した場合は、原則として格付結果等の評価結果は紹介者を経由してご協力いただいた事業者の皆様にお届け致します。

※ 格付対象に複数の工場が含まれ、かつ取組内容が大きく異なる場合は、格付範囲について別途ご相談させて頂くことが御座います。

※ ご提出期日：2009 年 10 月 30 日（金）

株式会社アイ・エス・レーティング
〒105-0001
東京都港区虎ノ門 3-7-10　ランディック虎ノ門ビル 2 階
格付部　三好・羽山・辻
E-mail：FCRating@israting.com
TEL　：03-6430-0472　FAX：03-6430-0473

以上

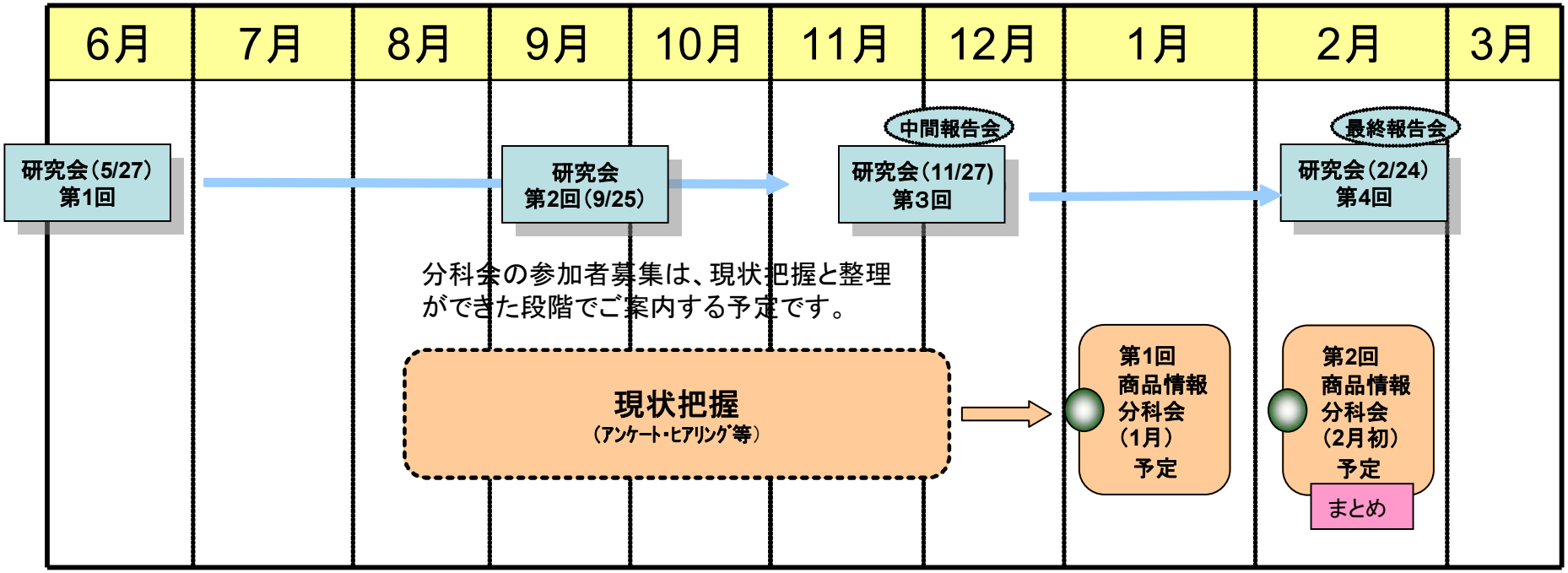
資料7

平成２１年度　FCP「商品情報の効率的なやりとり検討」分科会の進め方について（案）

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

年間スケジュールと議論テーマ

分科会の活動スケジュール （議論テーマとアウトプットは検討中）



※スケジュールはすべて暫定です。皆様のご意見を伺った上で設定いたします。

アセスメントの効率化研究会　第２回　参加者一覧

※　個人情報保護の観点から、参加企業／団体名のみ掲載します。（敬称略・五十音順）

1	株式会社 アイ・エス・レーティング
2	イオン株式会社
3	池豊株式会社
4	株式会社 伊藤園
5	株式会社 イトーヨーカ堂
6	株式会社 内田洋行
7	海外貨物検査株式会社
8	カゴメ株式会社
9	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
10	サントリーホールディングス株式会社
11	敷島製パン株式会社
12	太陽化学株式会社
13	株式会社 高島屋
14	東京海上日動火災保険株式会社
15	株式会社 日清製粉グループ本社
16	財団法人 日本食品分析センター
17	社団法人 日本能率協会
18	日本マクドナルド株式会社
19	株式会社 阪急クオリティーサポート
20	株式会社 ホンダトレーディング
21	株式会社 みずほコーポレート銀行
22	みたけ食品工業株式会社
23	三菱化学メディエンス株式会社
24	三菱商事株式会社
25	株式会社 山武
26	横浜商科大学地域産業研究所
27	株式会社 ローソン
28	わらべや日洋株式会社

第３回　アセスメントの効率化研究会の概要報告

・　日時　平成２２年２月４日（木）１６：３０～１８：００
・　場所　ＴＫＰ東京駅ビジネスセンター２号館　カンファレンスルーム２９Ｂ
・　出席者　２２事業者・組織　２６名

＜議事次第＞

１．開会ご挨拶（農林水産省・神井調査官）
２．分科会の進捗状況報告
（１）フードコミュニケーション(ＦＣ)倫理行動マネジメント基準策定分科会
（２）工場監査の標準化・共有化分科化会
（３）商品情報の効率的なやりとり分科会
３．研究会活動に関する意見交換
４．意見交換のまとめ
５．事務局からのご連絡
６．開会ご挨拶（農林水産省・神井調査官）

＜議事概要＞

１．開会ご挨拶

はじめに開会挨拶として、フード･コミュニケーション･プロジェクト（ＦＣＰ）の神井チームリーダーから､本日の研究会開催の趣旨についてご説明するとともに、今後のＦＣＰの活動について、次のようなご説明をいたしました。

来年度もＦＣＰの活動においては、具体的な企画の実施形態が変わってくることになる。限られた資源の中で、ＦＣＰの活動効果をどう高めていくか、農水省としても考えていきたい。例えば、既存の農水省のセミナーやシンポジウムの中で、ＦＣＰに関連するプログラムを組み込むことなどが考えられ、あらゆる機会を捉え、ＦＣＰの活動を広げていきたい。
研究会の運営の仕方についても、参加者のお力を借りた運営を模索していきたい。分科会については事業者の皆様から研究テーマをご提案いただいた上で、分科会の運営を事業者の皆様にお願いする手法も考えている。その際には、農水省は会議室を提供するなどの支援を考えたい。
また、ＦＣＰの活動の中で寄せられたご意見や、教えていただいたニーズ・シーズを活用していきたい。
例えば、工場監査分科会の成果物を、業界ガイドライン策定のためのベースとして活用することも考えられる。また事業者が任意に活用する目的で農水省が策定している規格として、たとえば工場監査項目の項目としてはこのようなものがありますよと、項目を示していくようなことが出来ないか検討していきたい。これは監査項

目を義務化したり、事業者の活動を規制するものではなく、事業者の前向きな活動を支援するものとして使うものである。ＦＣＰは、事業者の前向きな活動のためにお集まりいただいているプロジェクトであるという姿勢は変わらないので、改めてご説明しておきたい。
本日は、ＦＣＰの来年度の活動についてのアンケートを配布しているので、皆様からご意見をいただきたい。

２．分科会の進捗状況報告

引き続き、アセスメント研究会の各分科会の進捗状況について、分科会幹事および事務局より報告を行いました。

（１）フードコミュニケーション(ＦＣ)倫理行動マネジメント基準策定分科会

分科会幹事の横浜商科大学小林教授から、フードコミュニケーション(ＦＣ)倫理行動マネジメント基準策定分科会における検討進捗状況と、成果物である「ＦＣＭ２００９」の内容について、資料を使いご説明いただきました。この「ＦＣＭ２００９」は、現在横浜商科大学で出版に向けた準備が進められており、２０１０年３月に発行される予定となっています。

（２）工場監査の標準化・共有化分科化会

ＦＣＰ事務局より分科会の進捗状況について、資料に基づきご説明いたしました。昨年１１月に完成した工場監査項目シートの暫定版の試行結果についてご紹介し、今年度の成果物として、「共通工場監査項目　第１版」をまとめる予定であることをご報告しました。

（３）商品情報の効率的なやりとり分科会

ＦＣＰ事務局より、第１回分科会を３月９日に開催することをご案内しました。またこれまで事務局が個別に行ったヒアリング結果をご説明いたしました。今年度の分科会では、情報共有に関わる現状の課題を共有した上で、来年度以降の検討テーマについて検討することをご説明いたしました。

３．研究会活動に関する意見交換

続いて研究会の後半では、研究会活動に関する意見交換として、今年度の活動を通じての感想、来年度以降の活動テーマ、活動方法、協働の着眼点の見直し点について、皆様から意見をお寄せいただきました。

（１）年間の研究会活動を通しての感想

・　他業種の方と意見交換ができ、貴重な経験ができた。
・　ＦＣＰのホームページが消費者向けになっていない、一般消費者の人がＦＣＰに近づく方法が必要。

・　これまで多くの取引先からばらばらの工場監査を受けてきた経験から、ＦＣＰで策定した共通工場監査項目を国家規格として欲しい。
・　事故を防止するための監視ではなく、消費者や取引先から信頼を得るための工場監査という位置づけであれば工場側も監査を受け入れやすい。
・　今回策定した共通工場監査項目は、監査に使うには大雑把なところがあり、自社基準見直しの際の気付きに役立てることになると思う。共通の工場監査基準を策定しても、取扱う食品などにより細かいところが異なってくるのは当然だと思う。工場監査で確認すべき大項目が整理されたことは有効である。

（２）来年度以降の活動テーマ

・　海外との取引で考慮すべき点についても今後のテーマとして取り扱うべきではないか。
・　教育や研修などをテーマにしてはどうか。
・　共通工場監査項目をＩＳＯなどの審査の際に説明などの切り口で活用できないか考えたい。
・　商談会に関する分科会の活動と、商品情報分科会の活動をばらばらに行なうのではなく、両者間での整合性を図っていくことが必要。
・　商品情報について、各企業は現在高いコストを払ってデータベースを構築している。各社で無駄なことをやっているのが現実であり、分科会の場で成果が出ることを期待する。
・　ＦＣＰの活動の中で、消費者とのコミュニケーションをどう取っていくかが課題である。
・　商品情報の分科会に積極的に参加したい。
・　商品情報のやりとりはとても難しい。新たな分科会で意見交換を行い、なにか気付きを得たいと期待している。
・　商品情報の分科会では、輸入商品を取扱っている事業者のために標準化したものを英訳してそのまま使えるようなものができないか。
・　日本の標準とはなにか考えたとき、それがはっきり説明できないという現状を打開したい。
・　フードディフェンスの検討について取組んでいきたい。

（３）来年度以降の活動方法

・　研究会は東京に集中しているが、地域ブランチなど、地域に根ざした活動も必要。
・　ＦＣＰのネットワークに参加していない企業や、個人などをどうやって巻き込んでいくかが重要なポイントだと考える。

（４）「協働の着眼点」見直し項目

・　中小の事業者には協働の着眼点はハードルが高い。もう少し文言を噛み砕いたものを作ることが必要ではないか。

・　言葉が難しい、用語集などが作れないか。
・　現時点では「協働の着眼点」の見直しよりも、「協働の着眼点」の普及定着が必要だと考える。
・　「協働の着眼点」の見た目の改善を行い、知識のない人にも着眼点を落とし込んでいくことが必要。
・　「ＢＡＳＩＣ１６」は「協働の着眼点」よりは表現が分かりやすいと感じている。
・　こういった取組みの正解は一つではないので、大企業、中小企業、地方、業種など、いろんな視点で正解を作り出していくことが必要。
・　リスクマネジメントの観点や、ＢＣＰ、サプライチェーンマネジメントという観点が加わればいいのではないか。

他にも、「分科会の活動で苦労した分大変勉強になった」などの研究会活動に対する感想や、商品情報の効率的なやりとり分科会に対する期待等たくさんのご意見を頂戴いたしました。

４．意見交換のまとめ

ファシリテーターの杉浦様から、意見交換のまとめとして、以下のコメントをいただきました。

①　協働の着眼点の見直しも必要であるが、現段階においては「普及定着」のためのより一層の取組み強化を図っていくことも重要である

②　官民一体となってＦＣＰのプロジェクトを推進していくことが必要である

③　ＦＣＰ内での取組みにとどまらず、他の取組みとの目線あわせを行う事が、業界全体のボトムアップにつながり、ひいては消費者からの信頼向上につながるであろう。

５．事務局からのご連絡

ＦＣＰ事務局から下記４点についてご案内をいたしました。

①　ＦＣＰ成果報告会
　２月２４日（水）午後に東京大学弥生講堂で開催予定です。

②　「協働の着眼点作業グループ」開催予定
　３月１９日（金）午後に開催予定です。

③　アンケートご協力のお願い

④　「フーデックス２００９」開催予定
　３月５日（金）午後に開催予定です。

６．閉会ご挨拶

最後に神井チームリーダーから、以下の内容でご挨拶を申し上げ、閉会といたし

ました。

①　ＦＣＰの普及に向け成果物をどんどん活用して頂きたい。またその活用事例を事務局にフィードバックしていただき、それを事務局が事業者の皆様にご紹介するという循環を作り、ＦＣＰ活動を盛り上げていきたい。

②　ＦＣＰの取組みをまだご存じない社内の方や、取引先の方に、是非成果報告会をご紹介いただきたい。

＜配付資料＞

資料１．　参加者名簿

資料２．　平成２１年度「アセスメントの効率化」研究会資料

資料３．　フードコミュニケーション倫理行動マネジメント基準
　　要約版

資料４．　協働の着眼点（詳細版）

資料５．　共通工場監査項目・試行版

以上

資料2

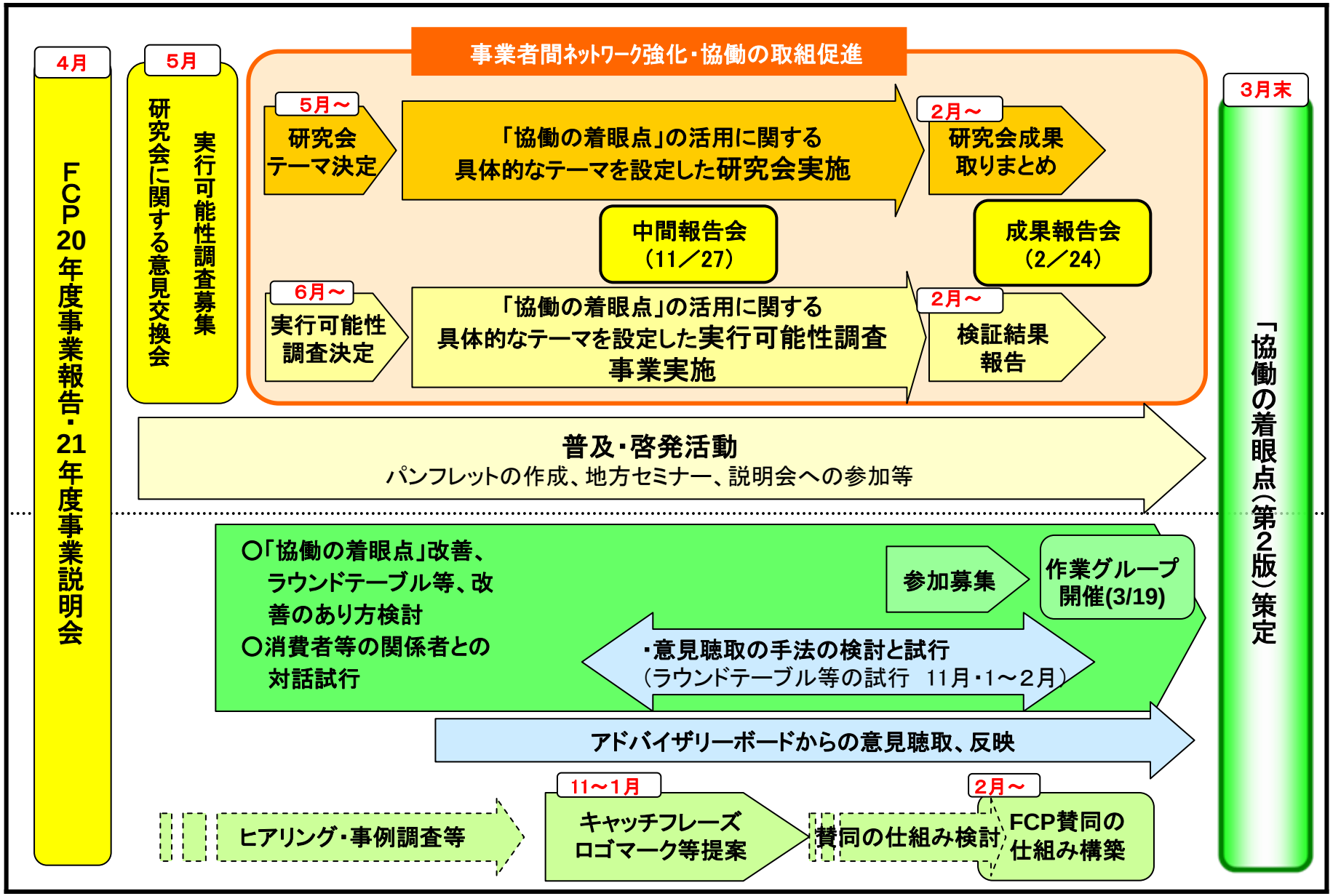
平成21年度　第3回
「アセスメントの効率化」研究会資料

平成22年2月4日

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

Food Communication Project
フード・コミュニケーション・プロジェクト

H21年度FCP実施期間の工程



平成21年度FCP研究会の概要

【研究会】情報共有の場

【分科会】具体的検討の場

企業行動の情報発信

- 失敗から学ぶ情報発信のあり方
- マスメディアとの意見交換のあり方
- 消費者との対話のあり方

アセスメントの効率化

- 工場監査項目の標準化・共有化
- 商品情報の効率的なやりとり
- フード・コミュニケーション倫理行動マネジメント規格の策定

地域活性化

- 企業力向上の場としてのマッチング フェア・商談会の活用促進
- 地域ブランチ
  - 三重ブランチ
  - 岩手ブランチ
  - 愛媛ブランチ
  - 和歌山ブランチ（予定）
  -

【地域の状況に応じたテーマ設定】

	失敗から学ぶ情報発信のあり方	マスメディアとの意見交換のあり方	消費者との対話のあり方	工場監査項目の標準化・共有化	商品情報の効率的なやりとり	フード・コミュニケーション倫理行動マネジメント規格の策定	企業力向上の場としてのマッチング フェア・商談会の活用促進	地域ブランチ
研究テーマ	事件・事故等発生時の適切な企業行動や、緊急時の情報開示、情報発信のあり方等の検討	食品事業者の取組を適切に伝達するためのマスメディアに向けた情報発信のあり方、マスメディアとの交流の場の持ち方の検討	消費者との多様な接点における対話型コミュニケーションのあり方及び「協働の着眼点」を活用した対話型コミュニケーションの手法の検討	食品事業者等におけるアセスメント作業の効率化のため、工場監査における項目の標準化・共有化の検討	食品事業者等における商品情報の効率的なやり取りの実現に向けた検討	食品関連事業者の経営倫理・法令遵守マネジメント・システムの構築	企業力向上の場としてのマッチング フェア・商談会の活用促進について検討	
主な研究成果	意見交換の整理集・有識者の講話録	マスメディアの講話録	ダイアログシステム	工場監査シート	商品情報の効率的なやりとりに関する課題	FCM 2009	商談会シート	実施報告書

平成21年度FCPアセスメント研究会・分科会参加者リスト

本研究会

株式会社 アイ・エス・レーティング
味の素株式会社
池豊株式会社
株式会社　伊藤園
イオン株式会社
株式会社 イトーヨーカ堂
株式会社 内田洋行
SGSジャパン株式会社
海外貨物検査株式会社
花王株式会社
カゴメ株式会社
京セラミタジャパン株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
NPO法人 サニテーション・デザイナー協会
株式会社 産經新聞メディックス
サントリーホールディングス株式会社
敷島製パン株式会社
株式会社 シジシージャパン
株式会社 消費経済研究所
太陽化学株式会社
株式会社 高島屋
株式会社 竹中工務店
株式会社 ちぼり
株式会社 東急ストア
東京海上日動火災保険株式会社
東京サラヤ株式会社
東洋冷蔵株式会社
株式会社 ニチレイフーズ
日清オイリオグループ株式会社
株式会社 日清製粉グループ本社
株式会社 日本アクセス
日本検査キューエイ株式会社
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
財団法人日本食品分析センター
社団法人 日本能率協会
日本百貨店協会
日本マクドナルド株式会社
ハウス食品株式会社
株式会社 阪急クオリティーサポート
株式会社 ファイネット
株式会社 ファミリーマート
物産フードサイエンス株式会社
株式会社 ホンダトレーディング
株式会社 マルハニチロホールディングス
みずほコーポレート銀行
みたけ食品工業株式会社
ミツイワ株式会社
株式会社 ミツカン
株式会社 ミツカンサンミ
三菱化学メディエンス株式会社
三菱商事株式会社
明治乳業株式会社
株式会社 山武
横浜商科大学 地域産業研究所
株式会社 菱食
株式会社 ローソン
わらべや日洋株式会社

計　57企業/団体

工場監査項目の標準化・共有化分科会

株式会社 アイ・エス・レーティング
味の素株式会社
イオン株式会社
株式会社 イトーヨーカ堂
カゴメ株式会社
京セラミタジャパン株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
NPO法人 サニテーション・デザイナー協会
サントリーホールディングス株式会社
敷島製パン株式会社
株式会社 シジシージャパン
株式会社 消費経済研究所
太陽化学株式会社
株式会社 竹中工務店
株式会社 ちぼり
株式会社 東急ストア
東京サラヤ株式会社
東洋冷蔵株式会社
株式会社 ニチレイフーズ
日清オイリオグループ株式会社
株式会社 日清製粉グループ本社
株式会社 日本アクセス
日本検査キューエイ株式会社
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
財団法人 日本食品分析センター
社団法人 日本能率協会
日本マクドナルド株式会社
ハウス食品株式会社
株式会社 阪急クオリティーサポート
株式会社 ファミリーマート
株式会社 ホンダトレーディング
株式会社 マルハニチロホールディングス
みたけ食品工業株式会社
ミツイワ株式会社
株式会社 ミツカンサンミ
三菱化学メディエンス株式会社
三菱商事株式会社
明治乳業株式会社
株式会社 山武
株式会社 菱食
株式会社 ローソン
わらべや日洋株式会社

計　42企業/団体

フードコミュニケーション（FC）
倫理行動マネジメント規格策定分科会

◎ 横浜商科大学 地域産業研究所（幹事団体）
株式会社 アイ・エス・レーティング
味の素株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
社団法人 日本能率協会
三菱商事株式会社

計　6企業/団体

平成２１年度
FC倫理行動マネジメント基準策定分科会資料

フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格策定分科会		
目的	食に関わる事業者が消費者の信頼を得るために、またフードチェーンを構成する関係者相互の信頼感の共有のために、協働の着眼点を活用し、食の信頼確保に向けた食品関連事業者の経営倫理基準と、製品実現基準で構成されるFC倫理行動マネジメント規格を作成する。	
進捗	第1回 H21.6.22	概要：　分科会参加者の紹介を行ったあと、分科会で策定する「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の内容と、作業の進め方について、意見交換を実施。
	第2回 H21.7.29	概要：「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の前文（考え方）及びFC倫理行動マネジメント規格の構成内容について意見交換を実施。
	第3回 H21.9.9	概要：「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」内容について、第2回分科会において参加者の方々から頂戴した意見をもとに、「FCM2009」の目的や方向性、注意事項、具体的な構成内容について意見交換を実施。
	第4回 H21.10.14	概要：「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の内容について資料をもとに、具体的な構成内容に関して要点を説明し、内容に関しての改善点や本規格の利用可能性に関する意見交換を実施。
	第5回 H22.1.20	概要：「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」の出版原稿ドラフトをもとに、マネジメント規格としての盛り込むべき内容・修正すべき内容について、最終的な意見交換を実施。
今後の展開		成果として、「フードコミュニケーション（FC）倫理行動マネジメント規格」を出版物としてまとめて発刊（2010年3月予定）し、本規格を多くの食品事業者の皆さまに広く有効に活用できるようにする。

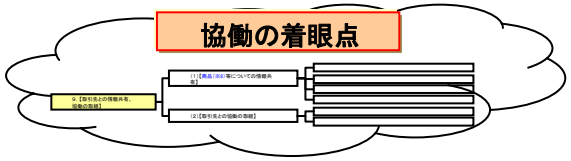
平成21年度
「工場監査項目の標準化・共有化」
の進捗状況について

分科会での検討方法について

工場監査項目を抽出・整理するためにグループディスカッションを実施

ステージ１

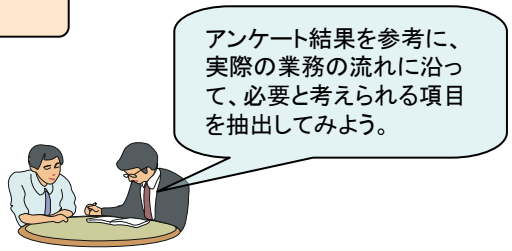
35社からのアンケート結果



ディスカッション1

工場監査項目の【抽出】

協働の着眼点（小項目）に対応する工場監査項目について、必要であると考えられる項目を抽出しました。



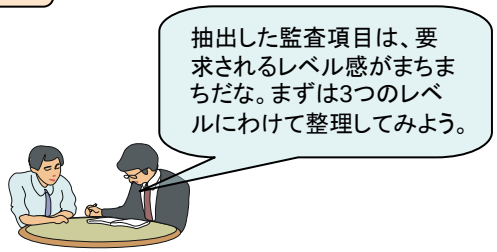
項目によっては、「食品事業者」、「監査・審査会社」を分けてディスカッションしている場合もあります。

ディスカッション2

【抽出】した工場監査項目の【整理】

抽出した監査項目について、レベル分けの整理をしました。

レベル分け　基礎項目：最低限押さえておくべき項目
条件適用項目：工場規模や業種に応じて必要となる項目
応用項目：付加価値的な情報として必要となる項目

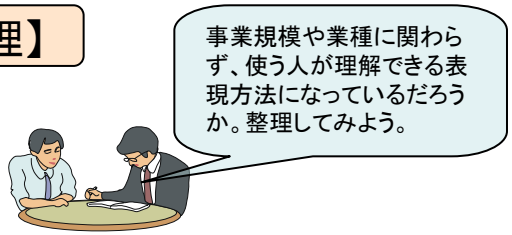


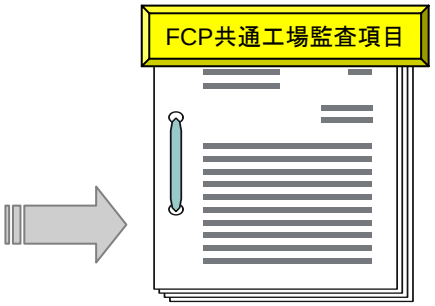
ステージ２

ディスカッション3

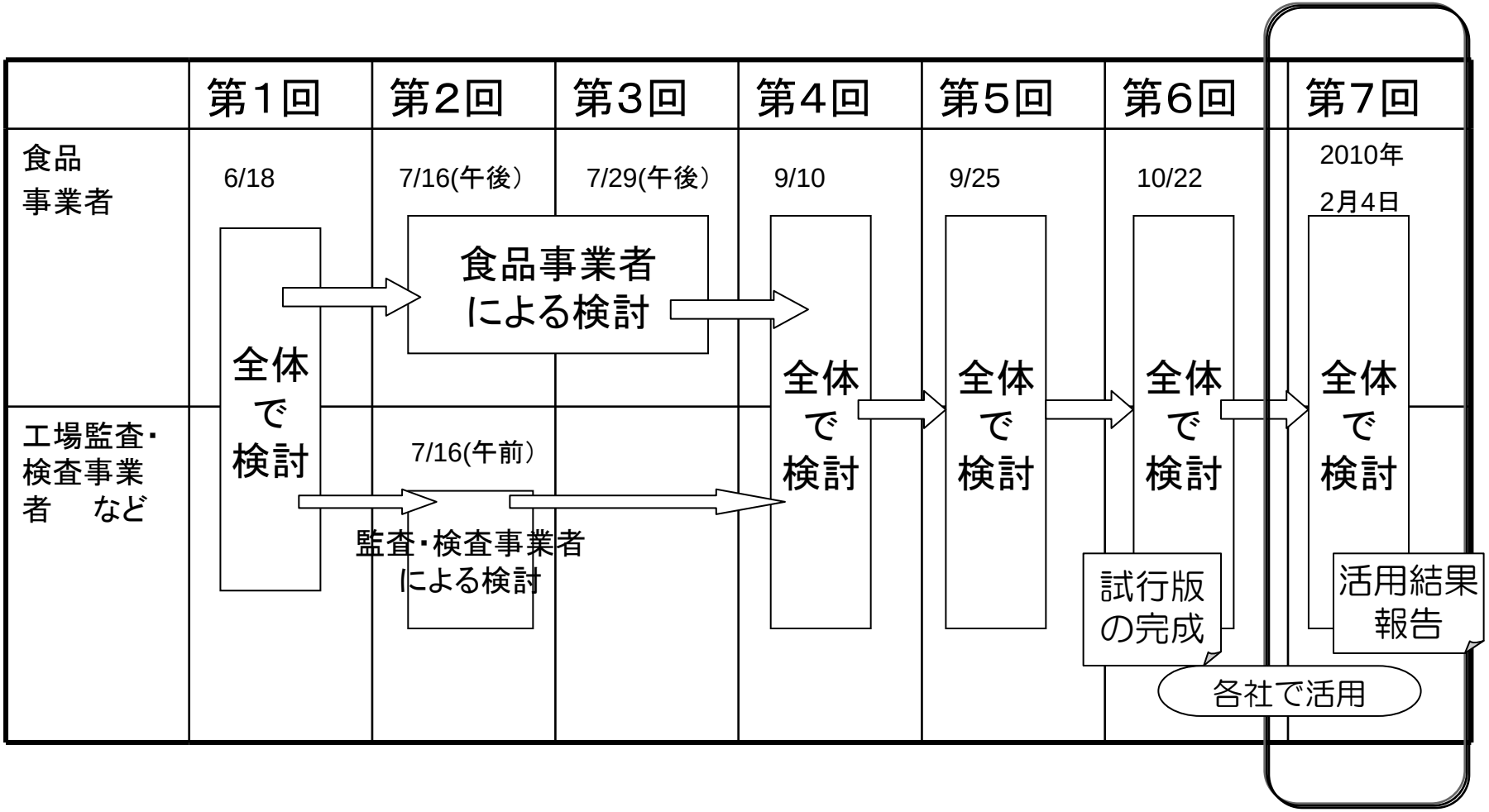
【整理】した工場監査項目の【表現の整理】

レベル分けした項目のうち、基礎項目とした項目について、表現方法等の見直しをしました。





分科会開催状況


第1回
第2回
第3回
第4回
第5回
第6回
第7回
食品事業者
6/18
7/16(午後)
7/29(午後)
9/10
9/25
10/22
2010年2月4日
食品事業者による検討
全体で検討
全体で検討
全体で検討
全体で検討
全体で検討
工場監査・検査事業者　など
7/16(午前)
監査・検査事業者による検討
試行版の完成
活用結果報告
各社で活用

完成した「FCP共通工場監査項目（試行版）」

116項目から構成される工場監査シート

ＦＣＰ共通工場監査項目　試行版

2009年11月9日　　ＦＣＰ事務局

【協働の着眼点・大項目1】『お客様を基点とする企業姿勢の明確化』				
（1）【経営姿勢の社内外への明示】				
① 経営者が、お客様を基点とする基本的考え方に基づいて、安全かつ適切な食品を提供する責任を認識しており、その姿勢を社内外に示している				
1	経営者または工場長などがお客様を基点とする考えを持っており、その姿勢についての社内外への明示			

【協働の着眼点・大項目2】『【コンプライアンスの徹底』				
（1）【基本方針の保持】				
① 法令遵守に真摯に取り組む方針を示している				
2	法令遵守の取り組みの社内外への明示			
（2）【遵守事項の明確化及び遵守の確認体制の整備】				
① 遵守しなければならない法令及び基準を明確にしている				
3	遵守義務のある法令及び基準の明確化			
② 明確化した遵守しなければならない法令及び基準について随時、適切に更新している				
4	遵守義務のある法令及び基準の更新			
③ 責任者を明確にして、遵守事項の管理及び遵守の確認を行っている				
5	遵守事項の管理及び遵守の確認を行う責任者の設置			
（3）【従業員教育】				
③ 従業員のコンプライアンスに対する意識を高める活動を行っている				
6	従業員のコンプライアンスに対する意識向上活動の実施			

【協働の着眼点・大項目3】『安全かつ適切な食品の提供をするための体制整備』

試行期間：

平成21年11月～平成22年1月末

工場監査試行結果

「気付き」や「効率改善」に関してのご回答（抜粋）

・「侵入防止等のセキュリティー」について新たな気付きができた。
・確認すべき項目をモレなく体系的に確認することができた。
・（監査する側として）質問に対する回答が要領を得ていた。
・表現が端的で、わかりやすかった。
・優先順位が明確になり、指導、改善業務の効率があがった。
・項目の網羅性からみて、抜けもれなく整備されており効率化できた。
・「ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ」、「ｸﾚｰﾑ対応」、「表示確認ﾙｰﾙ」について自社の監査シートに追加した。
・「薬剤の管理」や「廃棄物の管理」の項目が自社で不足していることに気付いた。
・工場では、自ら積極的に法令を知ろうという意識が薄いことに気付いた。
・管理の上位概念である「実施」の項目が、自社の監査シートにないことに気付いた。
・「責任者の設定」に関する明確さに欠く部分があることに気付いた。
・監査のポイントが明確になってスムーズに実施できた。
・コンプライアンスに関する重要性に気付いた。
・お客様対応が、川上の製造業、加工業でも必要であることがわかった。
・何を監査するのか明確になっているので使い勝手がよい。
・情報収集担当者を配置する必要性について、新たな気付きがあった。
・管理しておかなければならない部分が明示され、どの部分が整備できてないかわかった。
・事前の自社チェックが自律的に行われるようになった。

平成２１年度
商品情報の効率的なやりとり分科会

商品情報の効率的なやりとり分科会　開催のご案内

H21年度分科会

◇第１回分科会　平成22年　３月９日　午後　予定

【問題点の洗い出し】 テーマ：業務における問題点の洗い出し

商品情報に関するやりとりの業務は、様々な関係者が関わって実施されており、かつその情報量は膨大となっています。

まずは、参加者の皆さんで、業態、業種、職種の壁を越えて議論を進め、様々な観点から問題点を洗い出し、課題を共有しましょう。

～皆様のご参加をお待ちしております。～

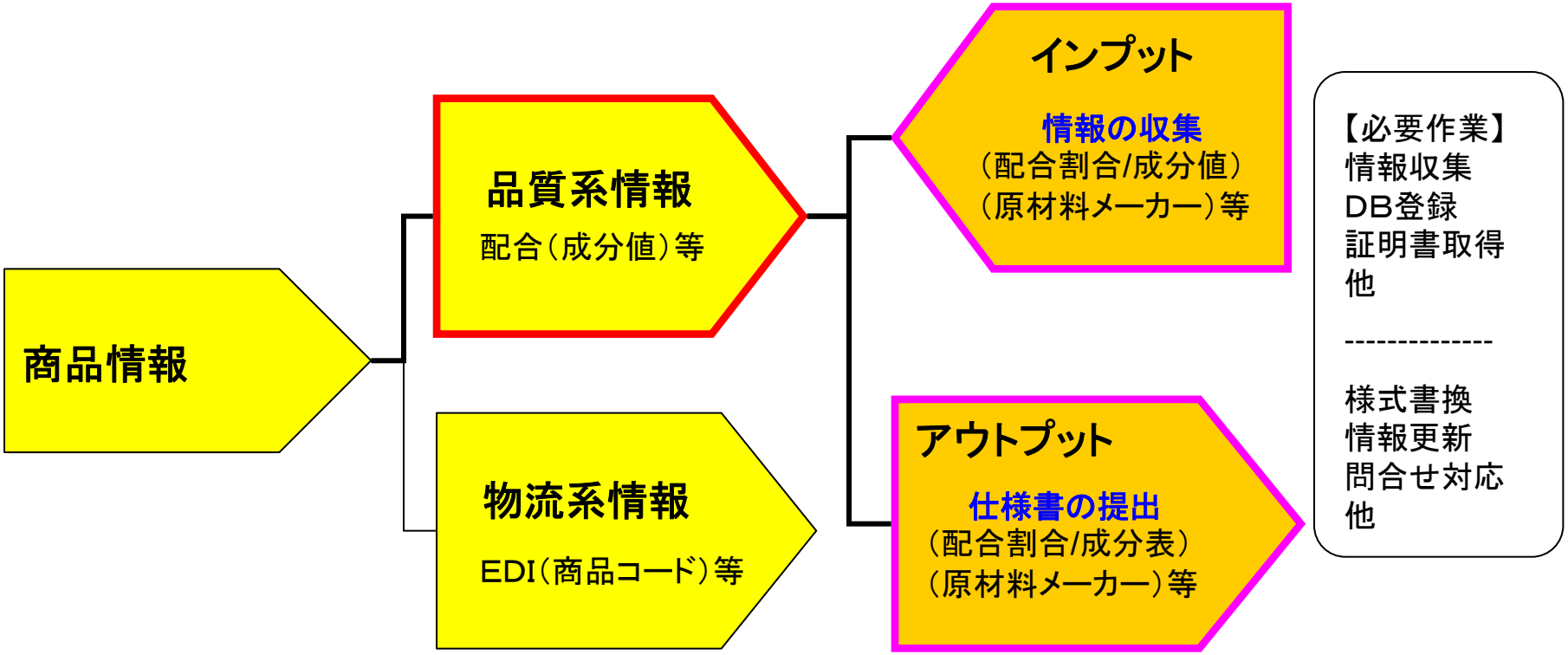
H22年度分科会

【課題解決の議論】 テーマ：洗い出された問題点よりテーマ設定し議論

商品情報の効率的なやりとり分科会　参考資料①

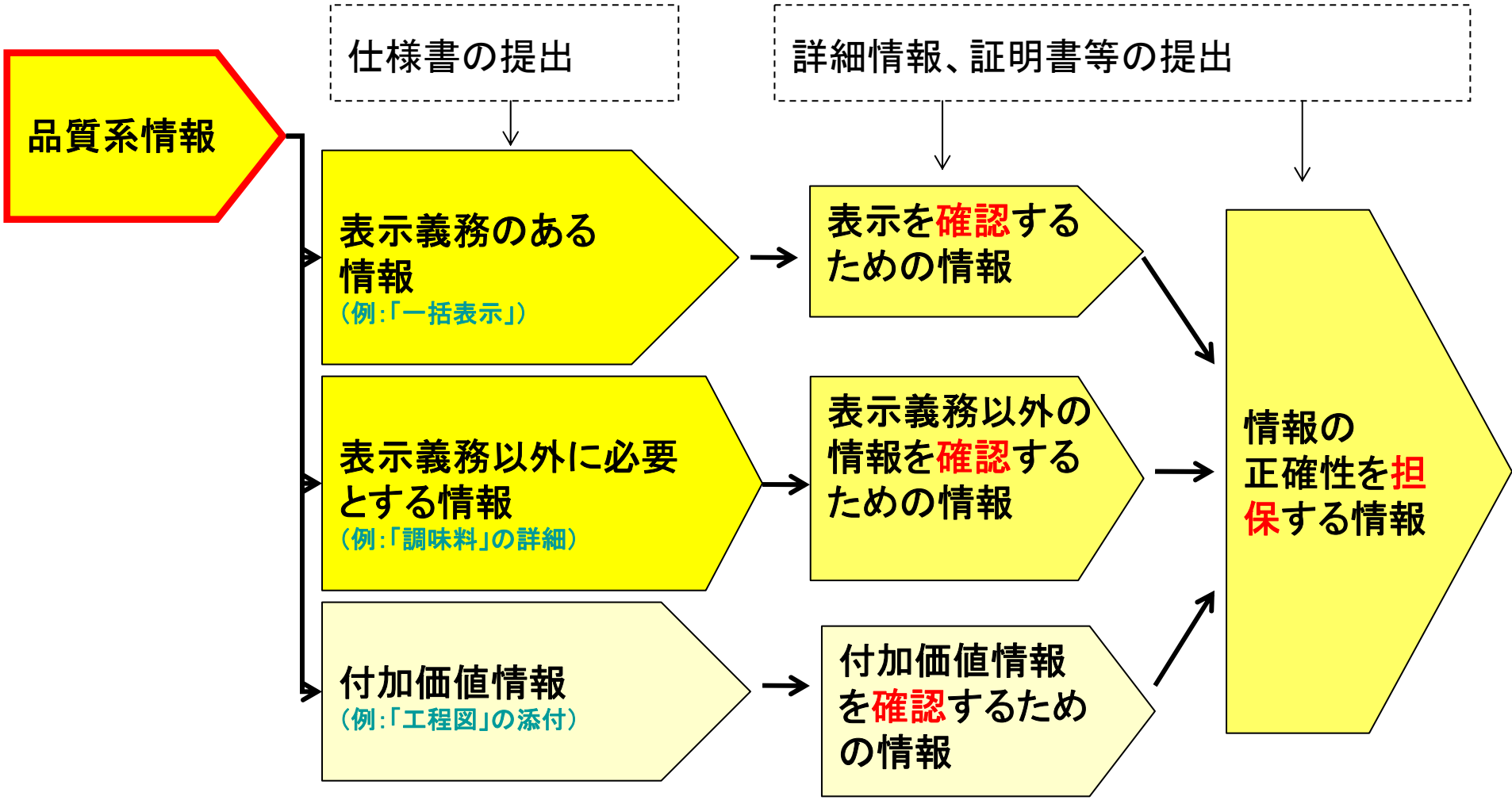
品質系情報とは①

品質系情報については、1アイテムごとに作業が発生



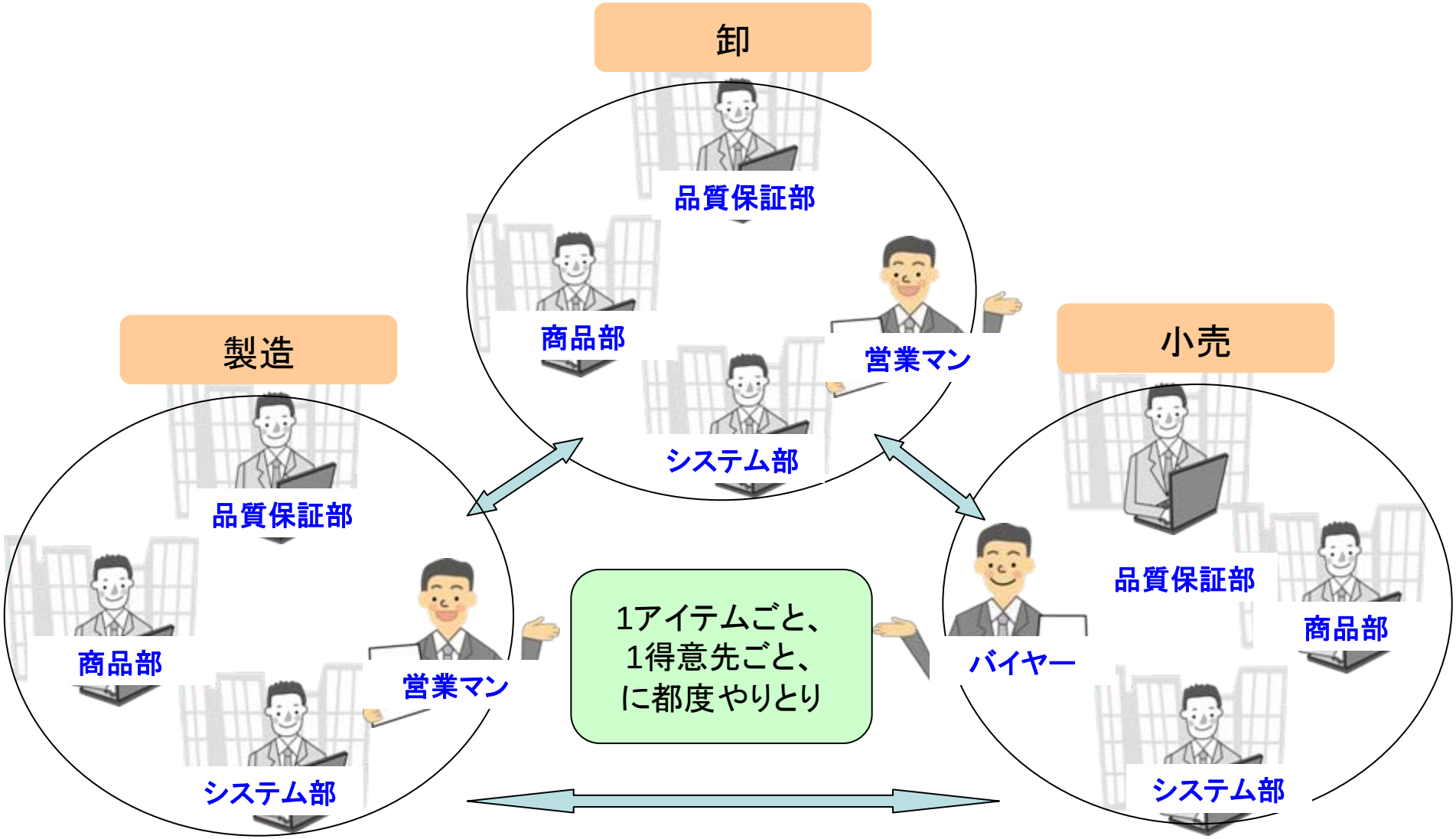
商品情報の効率的なやりとり分科会　参考資料②

品質系情報とは②



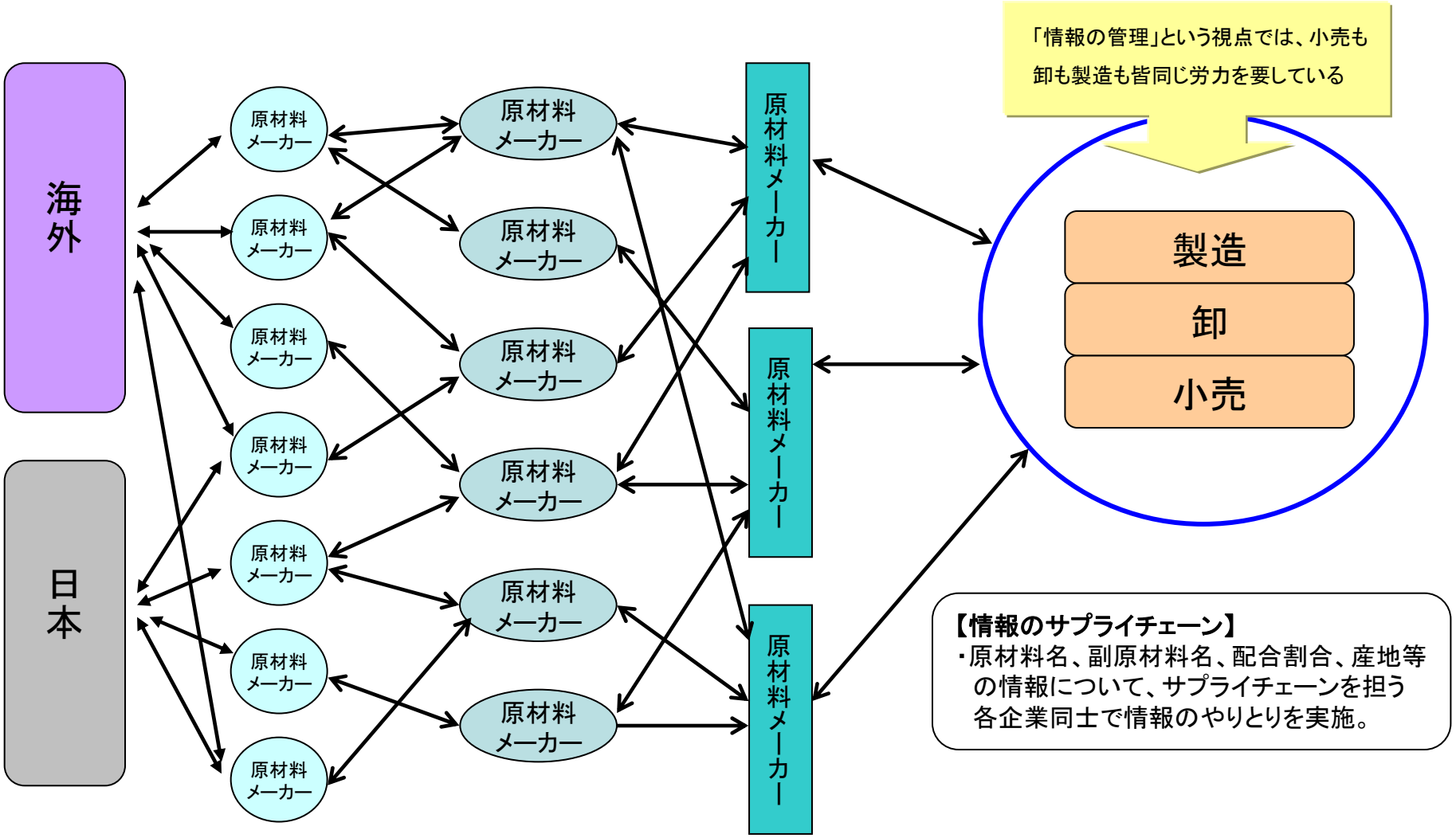
商品情報の効率的なやりとり分科会　参考資料③

様々な関係者が関わって、商品情報に関するやりとりを実施



商品情報の効率的なやりとり分科会　参考資料④

サプライチェーンを通じて情報量は膨大になっている



商品情報の効率的なやりとり分科会　参考資料⑤

情報の特性

- 可用性
  - すぐ必要
  - 後でも良い
- 更新頻度
  - 頻度　多
  - 頻度　少　（固定的）
- 機密性
  - Closeな情報
  - Openな情報
- 参照頻度
  - 常時（いつも）
  - 随時（あるタイミングで）
- 量・長さ
  - 多い
  - 少ない
- 完全性
  - おおまかなでも
  - 誤差は認められない

※情報には「変化するもの」「変化しないもの」がある（H20年度研究会より）

商品情報の効率的なやりとり分科会　参考資料⑥

ヒアリング等で出てきたご意見

- 企業間でやりとりする情報項目が異なる（種類）
- 企業間でやりとりする情報項目の範囲（組成表・成分比・原料原産地等）が異なる
- 企業間でやりとりされる情報項目の深さ（二次原料・三次原料等）が異なる
- 企業により、交換される情報項目の表現が異なる
- 企業秘密管理として交換出来ない情報がある
- 情報に変更が発生した際に、適切な情報交換がされない場合がある
- 企業により情報交換する頻度が異なる
- 緊急時の情報交換が円滑に行われない場合がある
- 取引先で情報が管理されていない場合がある（川上・川下）

本日ご意見いただきたい内容について

（1）年間の研究会活動を通しての感想
（2）来年度以降の活動テーマ
（3）来年度以降の活動方法
（4）「協働の着眼点」見直し項目

各事業者様1分半程度でご意見発表をお願いします。またアンケートへのご記入もお願いします。
本日お寄せいただきましたご意見は、FCP研究会の活動報告書へ反映させていただきます。

[参考資料] 工場監査分科会で寄せられた「協働の着眼点」見直しに向けたご意見

1.「協働の着眼点」項目の見直し案

（1） 故意の異物混入防止のため、何らかの抑止対策も入れたほうがよい

（2） 社員のモラルや人間性向上の項目があるとよい

（3） 変更管理（仕様書・原材料の変更がきちんと伝わるようになっているか）に関する項目の追加が必要

（4） 緊急時対応として、緊急時に事業が継続できるかという「事業継続計画（BCP）」の有無を確認したほうがよい

（5） 「開封原料・仕掛品・製品リパックなどの工程戻しの管理の実施」を項目として追加したほうがよい

（6） 機器に対する「保守点検」の項目を、通常のメンテナンスとは分けて記述したほうがよい

（7） 出荷段階での微生物検査の項目は、微生物の増殖に時間が必要で現実にそぐわない点があるので、削除したほうがよい。（5.(3)②部分）

2. 具体例の見直し案

（1） 5.(5)⑥への具体例追加案 「測定機器の分析精度について、定期的な確認・校正（キャリブレーション）を実施している。」

（一般的な範囲の機器校正について、「保守」の項目で挙げるのがよいと思われる。）

フード・コミュニケーション・プロジェクト（ＦＣＰ）
第３回「アセスメントの効率化」研究会　議事次第

日時：平成２２年２月４日（木）　16:30～18:00
場所：東京駅ビジネスセンター2 号館カンファレンスルーム 29Ｂ

＜議事次第＞

１．開会ご挨拶

２．分科会の進捗状況報告（分科会幹事企業およびＦＣＰ事務局）

（１）フードコミュニケーション(FC)倫理行動マネジメント基準策定分科会
横浜商科大学　小林二三夫 教授

（２）工場監査の標準化・共有化分科化会
ＦＣＰ事務局

（３）商品情報の効率的なやりとり分科会
ＦＣＰ事務局

３．研究会活動に関する意見交換

ファシリテータ：(株）鶏卵肉情報センター　代表取締役社長　杉浦嘉彦様

４．閉会ご挨拶

〈配布資料〉

資料１．　参加者名簿
資料２．　平成２１年度「アセスメントの効率化」研究会資料
資料３．　フードコミュニケーション倫理行動マネジメント基準
要約版
資料４．　協働の着眼点（詳細版）
資料５．　共通工場監査項目・試行版

「FCPの今後の活動に関するアンケート」は研究会終了後に回収いたします。ご協力をお願いします。

アセスメントの効率化研究会　第３回　参加者一覧

※　個人情報保護の観点から、参加企業／団体名のみ掲載します。（敬称略・五十音順）

1	株式会社 アイ・エス・レーティング
2	イオン株式会社
3	株式会社 イトーヨーカ堂
4	株式会社 内田洋行
5	ＮＰＯ 法人サニテーション・デザイナー協会
6	敷島製パン株式会社
7	株式会社 シジシージャパン
8	東京海上日動火災保険株式会社
9	東洋冷蔵株式会社
10	株式会社 日清製粉グループ本社
11	社団法人 日本能率協会
12	日本マクドナルド株式会社
13	株式会社 ホンダトレーディング
14	株式会社 マルハニチロホールディングス
15	株式会社 みずほコーポレート銀行
16	三菱化学メディエンス株式会社
17	三菱商事株式会社
18	明治乳業株式会社
19	株式会社 山武
20	横浜商科大学 地域産業研究所
21	株式会社 ローソン
22	わらべや日洋株式会社